

共立湊病院の問題に関してネット検索したり、入手した情報を時系列に纏めたものです。 可能な限りリンク先を示し、出典を参照できるようにしてあります。一部日時が不明確なものが有ります。			
日付	出来事	内容	リンク
大正12年6月16日	湊海軍病院として創設。		
昭和20年12月1日	国立湊病院として発足。		
昭和22年4月1日	国立療養所湊病院となる。		
昭和42年4月1日	国立病院に転換し、国立湊病院となる。		
平成5年4月1日	地域医療振興協会および自治医大静岡県卒業医師による内科医師派遣が始まる	義務年限内の自治医大卒業医師が2カ月交代でリレー。	http://kinojun.cocolog-nifty.com/blog/2009/08/1-
平成6年1月1日	地域医療振興協会 賀茂村(現西伊豆町)に安良里診療所を開設	湊病院との関連が薄かった西伊豆町・賀茂村の合意を促す意味合いもあった。	http://www.iadecom.or.jp/hospital/arari.html
平成6年3月1日	静岡県が自治医大卒業医師の国立湊病院への職員割愛を開始		
平成6年6月1日	小田和弘医師が国立湊病院副院長として赴任		
平成9年10月1日	国立湊病院が移譲され 共立湊病院 開設。 小田副院長が病院長に。 耳鼻科、眼科を増設。	地元市町村の説得に4年半を費やし、ようやく移譲が実現。土地建物は国から無償譲渡。県の補助での医療機器整備などの手厚い支援を受け、地元負担は殆ど無し。	http://www.iadecom.or.jp/hospital/kyoritsuminato.html
平成10年10月1日	麻酔科を新設		
平成11年5月17日	地域医療振興協会 西伊豆町に田子診療所を開設		http://www.iadecom.or.jp/hospital/tago.html
平成12年10月1日	婦人科を新設		
平成13年3月1日	国立伊東温泉病院が移譲され 市立伊東市民病院 開設(地域医療振興協会が運営)	湊病院の移譲成功により、国立病院の移譲の動きが加速。	http://www.iadecom.or.jp/hospital/ito.html
平成13年4月1日	地域医療振興協会 介護老人保険施設 なぎさ園 開設	過疎債の利用は南伊豆町長の判断で見送られた。建設費は負担金の形で地域医療振興協会が負っている。	http://www.iadecom.or.jp/hospital/nagisa.html
平成15年1月1日	東日本税理士法人ホームページ記事	「公営企業」2003年1月号p68~p75掲載 私は社団法人地域医療振興協会にも関与しておりますが、次に来る若い自治医大の先生はおそらく絶句します。 社団法人 地域医療振興協会にも相談している様であるが、受入体制の整備計画がまず必要。来て欲しい気持ちの表明だけでは無理。	http://www.higashinihon-group.com/kouei_Jan2003.pdf
平成15年度	地域医療振興協会が一部事務組合に負担金 年5000万円を拠出開始	減価償却費・新病院建設目的とされた。これを受けて建設検討委員会が設置された。	
平成15年9月28日	共立湊病院建設検討委員会が発足	・病院施設老朽化に伴う新病院建設・耐震化などについて検討する会議。 ・委員は、賀茂村を含む市町村長7名、組合議員4名(正副議長・監査委員・議員)、地域医療振興協会2名(理事長、共立湊病院長)、その他関係機関・団体4名(賀茂医師会長・伊豆県行政センター所長・伊豆健康福祉センター所長・伊豆保健所所長)、必要に応じてコンサルタント1名(自治体病院施設センター) 平成19年に新病院を建設する目標だった。	http://www.town.minamiizu.shizuoka.jp/pdf/d907_9.pdf
平成16年3月26日	第2回共立湊病院建設検討委員会	南伊豆町議会で検討委員会の内容について話題になっている南伊豆町議会議事録47ページ(PDF45ページ)付近	http://www.town.minamiizu.shizuoka.jp/pdf/d637_3.pdf
平成16年6月8日	南伊豆町議会議事録	共立湊病院への批判 議事録50ページ(PDF48ページ)付近	http://www.town.minamiizu.shizuoka.jp/pdf/d637_3.pdf
平成16年10月29日	第3回共立湊病院建設検討委員会		
平成17年5月24日	第4回共立湊病院建設検討委員会		
平成17年6月11日	地域医療振興協会 下田市にいなざ診療所を開設		http://www.iadecom.or.jp/hospital/inazusa.html
平成17年10月31日	第5回共立湊病院建設検討委員会		
平成18年2月21日	南伊豆町議会定例会	鈴木町長は湊病院の老朽化による建て替え問題について「まず財源の見通しが重要」「財政が厳しい各市町の負担を伴う問題。財源見通しや南校跡地の適地性、指定管理者制度なども念頭に検討」「なるべく早い時期に方向性を示したい。」	平成18年2月22日静岡新聞
平成18年5月16日	テレビ東京番組 ガイアの夜明け「町の病院が消える日」～地域医療の未来を描け～		http://www.tv-tokyo.co.jp/gaia/backnumber/preview060516.html
平成18年6月7日	河津町議会定例会	桜井町長は市町の合併支援策として「県が(湊病院を)下田市の県立下田南高跡地に移転新築を図ることが最大の支援策」と述べた。「移転に反対なら、南伊豆町で全部(の費用で)やってほしい。だが、それでは永久に新築できない」「国立湊病院が廃止され、97年に共立湊病院を立ち上げた時に、県が13億円をバックアップしてくれた。(6市町が)みんなで気持ちを一つにすれば、県は全面的に支援するといっている。最大の重点策にすれば、病院はできあがると思う」	平成18年6月8日朝日新聞
平成18年6月26日	南伊豆町長定例会見	「関係市町長の中には湊病院の移転新築を合併支援策として県などに要望すべきとの意見もあるが、移転問題を絡めると、町民感情的にも合併そのものが困難になる」「何が何でもわが町に残すというのではない。建て替え費用などの財政見通しが依然不透明。まず、財政見通しを明確にすべきと考えている。」「湊病院の歴史的な経緯や伊豆半島最南端の辺地医療の現状を考えると、ぜひとも現在地に残したいとの思いが強い。合併とは別で考えてほしい」 下田市長は「合併支援を活用しなければ、建て替えは実現できない」、河津町長は「県の支援策が合併の前提条件。移転新築への支援を合併支援策として県に要望すべき。」との姿勢を明示している。	H18年6月27日静岡新聞
平成18年8月14日	東日本税理士法人ホームページ記事	2006年7月26日、特定医療法人協議会主催のセミナーでの「公立病院民営化?自立と運営活力?」特定医療法人 関愛会の詳細な経過報告は、合併・民営化・病院建設の3の課題を税金投入無で見事に成功させた!事例で参加者に深い感銘を与えました。 理事長・院長長松宣哉(自治医大2期生)医師を中心に常勤医9名で医師不足無・毎年の税金投入無(逆に1億超の課税所得を出している。自治体に対する甘えゼロ)医療の質向上と住民の評価は極めて高い。 地域医療振興協会などの地方での貢献は高く評価していますが、さらにすすんで完全民営化を期待します。	http://www.higashinihon-group.com/iichitai_topics/001818.html

平成18年8月20日	東日本税理士法人ホームページ記事	第3回東栄病院改革委員会議事録 そんなことはありません、伊豆下田の共立湊病院。委託して ます地域医療振興協会、民法上の法人です。自治医大の先生が最 優先に行っているわけです。心配ないでしょうから。9月までに指 定管理者に南伊豆町は変えないといけいでしょうね。	http://www.higashinon-group.com/data/data_k/k070409_26.pdf
平成18年8月23日	一部事務組合定例議会 正副管理者が対立	下田市議伊東英雄氏「病院をどこに建て替えるのかを組合加盟 の6市町長が多数決で決めるべき時期だ」 管理者南伊豆鈴木町長「組合の病院建設検討委員会が検討中 だ。多数決で決めるより、南伊豆地域全体の賛同と、建設費の財 政的見通しが立たない限り、決められない。」 下田市石井市長と河津町桜井町長「6市町合併問題と病院建設 は切り離せない。そろそろ決断の時期で(6首長の)多数決で前に 進めなければならない」	平成18年8月24日朝日新聞
平成18年8月30日	下田市議会合併勉強会	静岡県賀茂地域支援局長は、共立湊病院を下田市に移転新築 することが合意された場合、県が支援する考えがある事を明らか にした。「今は1市5町がまとまって合併に進む状況に至ってい ないが、早急に取り組むよう、下田市が牽引してほしい」	平成18年8月31日静岡新聞
平成18年9月4日	河津町議会定例会	桜井町長「県の支援策が出なければ動かない」と述べ、支援策が 示されるまで合併推進構想について地区説明会などを開かないと の考えを強調。	平成18年9月5日静岡新聞
平成18年9月11日	南伊豆町議会定例会	鈴木町長「巨額の建設費の見直しなど、もっと検討すべき項目が ある」 病院建設検討委員会を9～10月に1年ぶりに再開すると表明。多 数決に関し、東伊豆、松崎、西伊豆3町長は慎重姿勢を明らかに している。 「移転するしないにかかわらず病院の建て替えには70-100億円 の資金が必要。できるだけ近いうちに検討委員会を開きたい。」現 病院の耐震補強工事について「管理者として話をしたことはある が、委員会では建て替えを前提とした話し合いになっている」	平成18年9月12日朝日新聞・伊豆新聞
平成18年9月11日	東伊豆町議会定例会	太田町長は「地元の南伊豆町の考えを抜きにして多数決などで決 めるべきではない」	平成18年9月12日静岡新聞
平成18年9月28日	医療経営財務協会ホームページ記事	地域医療振興協会の経営を高く評価します。 『～市立奈良病院の経営を引き受けられ業績がよいと聞いて～』 社団法人 地域医療振興協会の 志の高い 若い自治医大の医 師の皆さんの献身的な努力により立派に再生されました。 (友人である鈴木町長へのお願いです) 努力している共立湊病 院 ～名前が変わりました～ の スタート時を忘れる事なく 業 績があがっても 団体に利益を吸い上げることを決して 考えない で下さい。利益は病院の投資のみに使用させてください。	http://www.izai.net/nara.html
平成18年10月6日	医療経営財務協会ホームページ記事	講評で 地域医療振興協会 伊豆の共立湊病院の視察を助言さ れましたので早速訪問し模範的経営を参考に頑張っています」 私『医師不足解消のために 次は 佐賀県 の(佐賀の関病院)方 式に是非変更されることをお勧めします。	http://www.izai.net/nagano.html
平成18年10月14日	医療経営財務協会ホームページ記事	「11月5日の 共立湊病院 移転構想の報道に接しての感想」 同病院が地域医療振興協会を指定管理者として志の高い医師が 貢献し業績もよいことを発足以来高く評価し 多くの自治体病院の 模範であるとして この10年間視察を強く推奨してきました。 N TV特集に出られた 村上医師も2年ほど勤務されていました。長 野県 飯綱病院も5年前に視察し 参考にして頑張っています。 (10月6日HP参照) 地域医療振興協会は全国に事業展開し過疎地医療に貢献して います。移転新築は 所在地の南伊豆町の住民と加茂郡の中心 である下田市の住民 との意見調整で合意が成立するか注目さ れます。 報道では 組合議会が地域医療振興協会の黒字と組合の赤字 を取り上げていますが第三者の 公正な意見聞いて判断しないと 禍根を残す事になります。全国の自治体病院と比較して発言す べきです。	http://www.izai.net/minato.html
平成18年11月6日	朝日新聞記事(伊関友伸のブログより)	11月7日に病院建設検討委員会が1年ぶりに開かれるが、調整は 難航が予想される。	http://iseki77.blog65.fc2.com/blog-entry-4034.html
平成18年11月7日	第6回共立湊病院建設検討委員会	事務局側が県内外の公立病院での病床平均単価などから試算し た病院建設費用として、200床で81億6000万円(医療機器含む、 土地含まず)になると提示。公設民営の場合本年度から病院建て 替えの補助金がゼロになったことなども説明。 下田市石井市長「補助金なしで80億円以上かかる病院建設はは なからありえない。40億円ぐらいで造ることができる病院が現実 的。場所は二次救急医療の対応ができるよう地域の中央にある のが理想。県の合併支援策なくして、建て替えは実現できない。」 河津町桜井町長「民間病院も参考に建設コストを精査すべき」 具体的な候補地として、「現所在地」「県立南高跡地」に加え「箕作」 も検討していくことになった。 同組合の要請で自治体病院施設センターが昨年3月にまとめた 新病院基本構想策定報告書では、現所在地新築(154床)の場合76 億2200万円、移転新築(204床)は97億5500万円と試算している。	平成18年11月8日伊豆新聞・静岡新聞
平成18年11月17日	河津町長定例記者会見	事務局が示した建設費の試算額について「高すぎる。建て替えは 不可能と印象付けるための数値で、(建て替えを)やりたくないの 意思表示」と批判。「試算では1床あたり3200万円とあったが、 それほど高い例は今は少ないと思われるし、現病院の機材やベッ ドも使えるはずなので、建設費はもっと抑えられる」「建設検討委 員会を1年間も開かずに、いきなり何の相談もなく、ああいう資料 を出すとは荒っぽい」「南伊豆町長が町内からの移転を認めると は言えない事情はよく分かるが、建設費は財源も合わせて、もう 少し時間を掛けて検討する必要がある。1市5町の中央に救急医 療など機能の高い病院を新設するチャンス」	平成18年11月28日静岡新聞
平成19年9月28日	第7回共立湊病院建設検討委員会	議事録無し。新病院ができてはいるはずの平成19年になっても全く 話は進んでいなかった。	http://www.town.minamiizu.shizuoka.jp/pdf/d907_9.pdf

平成19年9月28日	第7回共立湊病院建設検討委員会(新聞記事)	南伊豆町鈴木町長は工事中の仮診療施設の設置などを理由に挙げて、耐震補強工事を断念した経緯を説明。「課題は建設用地と財政面。早急に次の委員会を開いて話し合いたい」新病院の病床数は現在の150床かそれ以下になる見通し。建設費については委員全員が公立病院平均実績値である3200万円/床では無理との意見だった。	平成19年9月29日朝日新聞・静岡新聞
平成20年2月1日	『日本の進路』地方議員版38号(2008年2月発行)	できレースの「公設民営化」明るみに その説明会で金沢医科大学病院の竹越副理事長の説明から、市長より昨年三月に指定管理者制度も念頭において市民病院の経営を依頼したいと公式に申し入れを受けていた事が明らかになりました。 4月に長委員会(市民病院改革委員会)を設け検討を始めていますが、すでに根回しを終えており、議会も騙し、市民も騙し、地域医療振興協会も騙して来たのです。要するに全国に広く一般公募するとしていたものが実質は金沢医科大学と地域医療振興協会との両者に随意契約を行っていたと同じ事です。金沢医科大学は、氷見市は二股をかけていたのかと激怒しながらも応募書類提出し、地域医療振興協会は何も理由を言わず応募を辞退するという結果になったのです。地域医療振興協会は氷見市の非礼さに腹を立てながらも何れの大学とも協調して行かなければならない立場から引き下がったものと考えられます ※地域医療振興協会としては当て馬にされたという認識は無かった。ただ他の団体が応募してくれたので、無理に応募する必要は無いと判断したとの事である。	http://www.kokuminrengo.net/old/giinban/g38-himishimibyouin-furuto.htm
平成20年2月6日	一部事務組合 運営会議	地域医療振興協会理事長は、建設検討委員会設置から5年経過しても新病院計画は全く進まず、不便な現在地での運営を強いられているのでは、今後赤字経営が免れない。このままだったら撤退させていただきたいと主張した。	http://kinojun.cocolog-nifty.com/blog/2008/02/1_139d.html
平成20年2月7日	地域医療振興協会が共立湊病院から撤退と報道される	上記と異なるニュアンスで報道される。	http://kinojun.cocolog-nifty.com/blog/2008/02/1_139d.html
平成20年2月7日	小田院長が「職員の皆様へ」という文書を配布		http://kinojun.cocolog-nifty.com/blog/2008/02/2_e1f5.html
平成20年2月8日	医療経営財務協会ホームページ記事	『これは驚くべきニュース 地域医療振興協会が過疎地病院経営から撤退・・・駆け込み寺も陥落？ 過疎地の救世主・・・協会の原点とも言われる共立湊病院の引き受けては出るか？』	http://www.izai2.net/minatob.html
平成20年2月12日	石川静岡県知事が記者会見で「まずは設置者である一部事務組合が考え方や姿勢を示すべきだ」と述べる		http://kinojun.cocolog-nifty.com/blog/2008/02/3215_4d6b.html
平成20年2月15日	一部事務組合臨時全員協議会	「3年契約を結ぶようぎりぎりまで交渉する」「病院の新築問題が進展しないのが撤退の理由ではないか」 また、将来構想特別委員会の設置を決めた。	http://kinojun.cocolog-nifty.com/blog/2008/02/3215_4d6b.html
平成20年2月17日	小田院長の「職員の皆様へ」という文書を当ブログに公開		http://kinojun.cocolog-nifty.com/blog/2008/02/2_e1f5.html
平成20年2月18日	小田院長の「職員の皆様へ」という文書に□内の分を加筆修正		http://kinojun.cocolog-nifty.com/blog/2008/02/2_e1f5.html
平成20年2月20日	6市町長と地域医療振興協会吉新理事長が会談	吉新理事長「地理的に不利な中で10年間頑張ったが、人口減少で患者が減り経営の限界に近い。1年以内に救急患者をしっかりと受け入れられる利便性の高い場所に新病院建設が決まるなら1年後の撤退を撤回し、組合の要望通りに3年契約していい」と提案。跡地利用については「十分には配慮する」医療が政治的問題とされている点に強い不満を示した。 6市町長は1年以内に新病院建設の方向性をまとめることで一致した。	平成20年2月22日朝日新聞・静岡新聞・伊豆新聞
平成20年2月21日	下田市議会全員協議会	前日の会談を受け、経過報告があった。 下田市石井市長「南伊豆町長は(移転反対の)町議会との関係で苦しい立場だが、協会の意向を受け入れたのは、なみなみならぬ決意で臨む表れではないかと」	平成20年2月22日朝日新聞・静岡新聞・伊豆新聞
平成20年2月22日	南伊豆町長定例記者会見	「移転もやむを得ないだろう」「1市5町の医療拠点を止めるわけにはいかない」「病院存続は合併問題と同じくらい重大で、切り離してほしかった。非常に頭が痛い。」	平成20年2月23日静岡新聞・伊豆新聞
平成20年2月25日 平成20年2月25日	組合議会2月定例会 一部事務組合定例議会	地域医療振興協会と平成20年4月からの3年契約を結んだ。 ・病院が組合に支払っていた負担金5000万円/年は、病院側の希望通り3000万円に減額。 ・病院側が求めていた1年以内に新病院構想を明らかにする事については、協定書には明示されなかった。 ・組管理者の南伊豆町長、「移転問題に最善の努力をしたい」。 【以下は2月26日付け伊豆新聞・静岡新聞・朝日新聞記事から】 山田直志議員は地域医療振興協会が指定管理から撤退を表明した際、同振興協会の理事会の決定事項とした点について、その根拠となる理事会の議事録、撤退に関する文書の提出を管理者側に求めた。鈴木町長は「撤退に関する振興協会からの文書は無い。議事録は入手が難しいが、最高責任者の発言として受け止めている」と 病院の現在地での存続を決議している南伊豆町議会選出の議員などが「下田市へ移転すれば、医師の確保ができるなどのバラ色の構想が描けるのか」と、移転条件に合意した組合執行部を批判。	http://kinojun.cocolog-nifty.com/blog/2008/03/post_5b3c.html
平成20年2月25日	第1回湊病院将来構想調査特別委員会	正副委員長選出、調査項目の検討及び資料収集の確認 建設検討委員会とは別に、将来構想特別委員会が発足 地域医療振興協会・湊病院関係者が新病院に関する話し合いから排除される。	

平成20年3月4日	南伊豆町議会で当ブログに掲載された小田院長の文章が批判される(議事録72ページ)	「これはインターネットのブログ見ても全文が出て、院長はこれが流れてもいいという、あるブログの中で報道されている職員の皆様へという文章でそちらの裏に書いてあるかもしれないですけども、」	http://www.town.minamiizu.shizuoka.jp/pdf/d1055_3.pdf
平成20年3月4日	南伊豆町議会定例会	梅本議員「一年以内に移転新築を競技するという紳士協約は、いまのところへんならかの診療所を残すのか」町長「協会側は現在地へ病院または診療所を残すという言葉は使っておらず、十分配慮すると言っている。それがどういう形でなされるのか、これからの協議になる。」 横嶋議員「湊病院は18年度で若干の赤字だが、病床利用率は79.4%あり、それほど悪い数字ではない。撤退の理由になりうるのか。下田市への移転だけではないのか」町長「運営会議では細かい点について話しあう雰囲気ではなかった。一方的に撤退の表明が行われた。」	平成20年3月6日伊豆新聞
平成20年3月7日	南伊豆町議会定例会	保坂議員「共立湊病院は修学旅行、臨海学校の誘致や、宿泊施設の利用客に安心感を与えており、移転は南伊豆町の観光にとって死活問題になる。同病院は医療機関と同時に防災拠点の役割を果たしている。撤退の表明はへき地医療を担う地域医療振興協会の理念からして疑念がある」町長「共立湊病院には医師含め240人の雇用があり、我が町の大きな事業所。観光面では旅館ホテルの救急医療体制の点からも重要であり、現在地へ存続させていきたい」 清水議員「共立湊病院の指定管理者は、公募を行う必要があるのでは。今後の医療のありかたは」町長「4月から3年間の契約を結び、新しい病院のあり方や規模は、組合と地域医療振興協会、医師会とも協議して方向づけをしたい」	平成20年3月7日伊豆新聞
平成20年3月11日	下田市議会定例会	沢登議員「共立湊病院の地域医療振興協会撤退問題はどうも政治発言としか思われないが、いずれにしても二次救急の受け入れが二ヶ所だけというのは不安が大きい。産婦人科や小児科不足と併せ早急に整備を講じるべきだと考える。三次救急への搬送を担うドクターヘリの夜間飛行もなんとかならないか。」市長「二次救急は昨年11月、伊豆下田病院が抜けたことで二ヶ所に減り、一層共立湊病院へ集中することになった。親切は現実的でないが、既存施設を活用しての受け入れは可能と考えられるので、賀茂医師会とも積極的に話し合っていきたい。産婦人科や小児科不足は下田に限らず、どこも共通した悩み。産婦人科が一軒あるだけでも下田は幸せと考えている。ドクターヘリは現在、有視界飛行しかできないが、夜間飛行なども研究中と聞くので、システムの構築に期待を寄せたい。」	平成20年3月13日伊豆新聞
平成20年3月20日	自民党南伊豆支部大会が、共立湊病院の現地存続と充実を求める要望書を採択	「共立湊病院の建て替え計画により他地域へ移転しようとする動きが出ていることは伊豆半島先端に生活する住民にとって極めて由々しき事態。病床を抱える医療施設が無くなることは、新たな医療過疎をつくり出すことにつながり、断じて容認できない。地域の観光振興と防災拠点の位置づけから同病院を公的医療機関として、現地の存続と充実を求める」	平成20年3月21日伊豆新聞
平成20年4月14日 平成20年5月2日	第2回湊病院将来構想調査特別委員会 南伊豆町議会	賀茂医療圏の救急及び各市町の救急搬送の現状把握。 漆田議員提案の「共立湊病院を公的病院として現在地で存続・充実を求める決議」を賛成多数で議決した。同様の議決は4回目。	平成20年5月5日伊豆新聞
平成20年5月5日	医療経営財務協会ホームページに小田院長の文書(当ブログからの無断コピー)が掲載される	南伊豆町議会で配布されたものが流れたのかも知れません。	http://www.izai2.net/seibi.html
平成20年5月12日	第8回湊病院建設検討委員会(最後の建設検討委員会)	鈴木町長「建設検討委員会は平成15年9月からスタートして8回目になる。現在の病院施設は30年以上経過し、老朽化していることから委員会がスタートしたが、建設場所や財源など大きな問題であり、それぞれの立場から意見を述べてもらい、よりよい病院を建設していきたい。」 診療科目数及び病床数など新病院の基本方針、現在地または下田南高跡地、下田市内の第三候補地とした新病院建設候補地、公設公営、指定管理者、PFI、民設民営などの経営形態に関する検討項目を協議事項に意見交換した。 主に新病院の建設地問題について話し合われた。賛成反対の両委員が激しく論戦。「利便性の高い場所への建設」という結論にとどまり、具体的な候補地の選定には至らなかった。委員会終了後鈴木町長は「これまでの候補地を含めた上で、利便性の高い場所にすることが確認された。次回(の会合)でさらに具体的になるだろう」と述べた。	平成20年5月13日伊豆新聞・静岡新聞・朝日新聞
平成20年5月26日	河津町長定例記者会見	建設検討委員会の協議内容について「現在地以外の利便性の高い場所に移転することが決まった」という見解を述べた。	平成20年5月27日静岡新聞
平成20年6月3日	南伊豆町議会第1回地域医療問題調査特別委員会	委員長は保坂議員。町内の医療課題を調査研究するため設置された。委員は全議員。鈴木町長の見解などを聞いた。翌年3月までに10回程度開催予定と。	平成20年6月4日伊豆新聞

平成20年6月5日	医療経営財務協会ホームページ記事	地域医療振興協会の撤退が3年後に迫った今、この地域の医療を支えてきた共立湊病院はどうなるのか。この問題は地域住民にとって最大の関心事であり、その動向に注目しながらも日々不安を抱えて生活しております。我々青年会議所もこの地域で活動している団体として、この問題を積極的に捉え、今講演会に、「選択と集中」というキーワードをもとに全国各地の公立病院再生のエキスパートとして、手腕を振るわれている長 隆(おさたか)氏をお迎えし、自身が手がけた総務省による公立病院改革ガイドラインに則った再生の事例をもとに、共立湊病院の存続と再生への手掛かりと、そのために必要なマネジメントの手法などを講演、ご提案いただき、どのような医療がこの地域に必要なのかを模索し、共立湊病院とこの地域における総合医療のあり方について考えることを目的としてこの講演会を開催したいと思います。ご多忙かと存じますが、多数のご出席をお願い申し上げます。豪華病院の新築 起債制限公立丹南病院(福井県、地域医療振興協会運営)12年9月新築計画と懸念される問題点	http://www.izai2.net/nansyoku.html
平成20年6月10日	南伊豆町議会定例会	横嶋議員「合併に賛成でも共立湊病院の移転には反対の町民が多い。合併協会の南伊豆町の立場は、病院が移転すれば、何のための合併か不安視される。」町長「合併協の中で建て替えも併せて考え、現地に医療を確保したい。」 清水議員「地域医療振興協会と組むは3年間の契約を結んでいるが、早めに一般公募の準備を進め、医療内容のプレゼンテーションを受けるべき」町長「指定管理者の公募は独断で行う訳にはいかないが、検討したい」	
平成20年6月13日	日本経済新聞記事 県内公立病院 運営形態の見直し急ぐ	黒字決算で一ベッド当たり繰入金最も少ない共立湊病院も「今後は赤字に陥る」と厳しい見方を示す。前身の国立病院が移譲された際の補助金などが支えだったが、施設の老朽化は深刻だ。運営する社団法人は新病院の構想を描けなければ撤退すると表明。同病院組合は一年以内に方向性を固めるが、負担増は避けられそうもない。「今は何も決められない」と、県内で唯一、改革プランの作成を見送った。	
平成20年6月14日	静岡新聞記事 湊病院移転問題 揺れる賀茂地区 全域の利便性考慮を	むしろ病院の移転新築を機に、自治医大の卒業生を中心に約630人の医師を抱えて全国展開する同振興協会に医療体制の充実を求める方が建設的だろう。総合医の増員をはじめ、心筋梗塞に対応する循環器内科や診療所で手薄な泌尿器科の増設など、移転の逆条件を取り付けるぐらいの交渉があってもいい。跡地での医療確保も全体でみればプラスになる。	
平成20年6月16日	医療経営財務協会ホームページ記事	公的医療施設「共立湊病院」が新病院建築問題で揺れている賀茂地区一市五町(下田市、東伊豆、河津、南伊豆、松崎、西伊豆町)唯一の公的医療施設「共立湊病院」=南伊豆町湊=が、新病院建築問題で揺れている。二月には同病院を運営し、下田市などへの移転新設を主張する社団法人「地域医療振興協会」の撤退騒動 ..	http://www.izai2.net/keuron.html
平成20年6月16日	医療経営財務協会ホームページ記事	6月19日 南伊豆町 共立湊病院の存続を願ってこの講演の冒頭に挨拶です 南伊豆は地域医療振興協会の志の高い医師の皆さんの献身的努力に甘えてきた10年であったと言わざるを得ません。適者生存チャールズ・ダーウィンの進化論「強い者が生き残れるのでなく・環境に適応できた者が生き残れる」..地域医療の経営環境は ..	http://www.izai2.net/sinpuru.html
平成20年6月19日	下田青年会議所主催 共立湊病院の存続を考える講演会 「まちの病院が消えなかった事例に学ぶ」	講師は総務省の公立病院改革懇談会の座長を務めた下田市出身の長隆氏。 地域医療振興協会が、地元自治体による経営赤字の穴埋めを問わずに病院を維持してきたことを高く評価した。一方一部事務組合については「利害関係者が対立して迅速な意思決定ができない運営形態。病院経営にはそぐわない」と批判し、独立行政法人化を促した。また過去5年間で成果が上がらない新病院建設検討委員会は廃止し、外部医師らを中心に病院の在り方を考える新たな組織が必要だと語った。新病院穿設費は1床あたり1500万円前後が妥当。都心から医師をヘリ輸送する計画も説明した。	平成20年6月19日伊豆新聞 平成20年6月22日静岡新聞 平成20年6月24日伊豆新聞 平成20年7月5日朝日新聞
平成20年7月3日	南伊豆町議会第2回地域医療問題調査特別委員会	医療専門家として賀茂医師会の正副会長を招いた。「今後は夜間の救急センターを設置する必要がある。」「賀茂地区東西二箇所」に設けたい」「二次救急に特化しなければ回っていかない」「二次救急の機能が現在は十分でない」「住民が求める病院の内容が全く見えない。場所の事だけ聞かれても適地としか答えようがない。医師会としてはお互いに連携していきたい。産婦人科やがん治療の対応も重要だ。」	平成20年7月4日伊豆新聞
平成20年7月8日	第3回湊病院将来構想調査特別委員会	長 隆氏による講演「共立湊病院の存続を考える」 独立行政法人化を提言。構成メンバーは従来の市町首長や議員を排し、税理士など利害関係のない専門家を参考に挙げた。「社会医療法人のいずれかが、下田へ進出してくる可能性も出てくる」特別委員会は医療関係者らによる第三者機関を新設し、病院の将来像についての検討を委ねることで合意。	平成20年7月9日静岡新聞 平成20年7月10日伊豆新聞
平成20年7月9日	医療経営財務協会ホームページ記事	南伊豆の病院が永続可能の見込みができました。... 共立湊病院をめぐるのは、運営母体の社団法人「地域医療振興協会」(東京都)が今年2月、近い将来の経営難を理由に撤退を表明。その後、6市町長が「利便性の高い場所に新築を検討し、1年以内に方向を示す」という条件を出したことを受け、運営委託契約 ...	http://www.izai2.net/kaisan.html
平成20年7月17日	南伊豆町議会主催の講演会	長隆氏による講演「共立湊病院の存続を考える」(3回目の講演会)	平成20年7月19日伊豆新聞

平成20年7月18日	湊病院将来構想調査特別委員会中間報告 第三者委員会の設置要請	首長や地域医療振興協会をはずした「第三者」での改革推進委員会設置を求める	
平成20年8月1日	一部事務組合 運営会議	第三者機関設置についての結論は見送り	平成20年8月2日朝日新聞・静岡新聞・伊豆新聞
平成20年8月6日	一部事務組合 運営会議	第三者機関の設置に合意。運営形態は公設民営を維持する事と	平成20年8月7日朝日新聞・静岡新聞
平成20年8月6日	医療経営財務協会ホームページ記事	『厚生労働省への要請文・・・抜粋共立湊病院(南伊豆町)を過疎地域医療の中核として位置づけるよう、(社)地域医療振興協会に指導を要請する。』 (社)地域医療振興協会の運営について、監査体制は正常に行われているのか、外部監査の実施を求める。 【08.05.30】静岡県の皆さんと一緒に政府要請 2008年5月30日、佐々木憲昭議員は、日本共産党静岡県委員会と衆議院予定候補者の皆さんと政府要請をおこないました。	http://www.izai2.net/kei.html
平成20年8月11日	第4回湊病院将来構想調査特別委員会	委員会中間報告の顛末、総務省ガイドラインの検討及び審議。	
平成20年8月25日	組合議会8月定例会		http://www10.ocn.ne.jp/~minatohp/data/gijiroku/gikai/h20.8teirei.pdf
平成20年9月1日	共立湊病院改革推進委員会の設置が組合管理者の専決処分で決定される		http://www10.ocn.ne.jp/~minatohp/data/gijiroku/gikai/H21.2teirei.pdf
平成20年9月11日	南伊豆町議会	地域医療振興協会に対する批判 議事録128ページ(PDF32ページ)あたりから	http://www.town.minamiizu.shizuoka.jp/pdf/d1063_6.pdf
平成20年9月14日	医療経営財務協会ホームページ記事	委員は総務省の公立病院改革懇談会座長を務めた長隆氏(67)が依頼したという。全国自治体病院協議会名誉会長の小山田恵氏や順天堂大名誉教授の小出輝氏、聖マリアンナ医科大理事長の明石勝也氏らが就任する。 一方、桜井泰次・河津町長は9日の議会で「現在地での新築を結論とするようなら、反対だと長氏に伝えてある」と述べ、結論次第では反対する考えを強調した。 同病院をめぐるのは、現在地での新築か、下田市への移転新築かで話がまとまらず、長氏の第三者機関設置の提案を6市町長が受け入れた。	http://www.izai2.net/houkou.html
平成20年9月26日	南伊豆町議会地域医療問題調査特別委員会	地域医療振興協会の理事37人に対し、理事会の議事録公開を求める依頼文を送付する事を明らかにした。保坂委員長「へき地医療を担う地域医療振興協会の目的からして撤退は考えられないが、推測ではなく事実を明らかにすることで指定管理者との信頼関係を構築していきたい」 組合管理者の南伊豆町長は干渉しない考えを示した。	平成20年9月27日伊豆新聞
平成20年9月30日	第1回共立湊病院改革推進委員会	3回開かれた改革推進委員会において、現指定管理者である地域医療振興協会への批判が展開された。静岡県医師会長、賀茂医師会長などが招かれ発言したが、その一方で、共立湊病院関係者の発言の機会は全く設けられなかった。 第1回 共立湊改革推進委員会 会議録 長会長 一般会計というのは、地域医療振興協会の一般会計、本部会計だと思うのです。病院は社団法人地域医療振興協会の収益事業になります。収益事業から本体の公益事業に支出をすれば、税法上損金になります。所得があっても、寄附金限度額以内であれば税が軽減されます。今課長が説明したように、課税法人で、損金になります。ですから、一般会計から一般会計繰入金支出というのは寄附をしたとみなします。内部での寄附というのはありませんので、みなし寄附。利益の中から寄附をしたということで、この10年間で3億9,100万は、地域医療振興内部での資金移動にすぎません。これは今課長から説明からありましたように資金留保されています。ちなみに、社団法人はもちろん利益処分ができませんので、共立湊病院の医療施設の更新とか新築にしか充てられないものであると考えておりますが、そういう解釈でよろしいですね。事務局、その説明でいいですか。 長会長 気をつけて発言していただきたいのですが、医師の招聘というのは、たとえば、民間医局に医師を1人派遣してもらったら300万円払えばいい。4,000万もかかると思ったらお医者さんは随分ふえています。医師の件費は『人件費』で出ているわけですから、本部費は要するに利益の留保とご理解いただいているのではないかと思います。経営状況一覧表をみると、当期末処分利益が9億6,700万で、みなし寄附金が3億9,000万ですから、結局のところ約14億円が留保されていることになるのだらうと思います。地域医療振興協会は民間法人ですから、問題があるというわけではありませんが、そういうお金が社団法人と病院の運営によって利益が留保されて、現金としてもあるはずだという解釈になります。地域医療振興協会が奇跡的にやってくれたことに対して私はここで2回ほど講演をしたときにも、感謝すべきであるということは申しました。感謝するだけでいいのか。行政はかなりリーダーシップを発揮して、月4回当直に制限するということを引きつとしなければいけないだろうと。	http://www10.ocn.ne.jp/~minatohp/data/kaikaku-no1.pdf
平成20年10月15日	東日本税理士法人ホームページ記事	日経ヘルスケアの10月号P50より「追い詰められた自治体病院 相次ぐ民間譲渡、地方では休院も」と題して特集がされています。2004年から2007年度にかけて44の自治体病院の指定管理者となった法人の種別は次のようになっているそうです。 地域医療振興協会 25% 都道府県および群市医師会 25% 財団法人、社団法人、学校法人、社会福祉法人 29.5% 医療法人 11.4% 日赤、済生会 9.1% 指定管理者として医療法人がなるケースは1割程度という結果が出ました。 指定管理者の公募で複数の法人が競合する場合は、公益性の高い法人が選定されているからだと思います。 今後は、社会医療法人が指定管理者の主体になりうる事が予想されるので、指定管理者に占める医療法人の割合は増えるかもしれません。	http://higashinihon-group.com/iichitai_topics/post_708.html
平成20年10月16日	南伊豆町議会医療問題調査特別委員会	地域医療振興協会の理事に対する質問に1件も返答が無かった事を明らかにした。「信頼関係に大きな禍根を残した」と指摘した。	平成20年10月17日伊豆新聞 平成20年10月18日静岡新聞

平成20年10月17日	第2回共立湊病院改革推進委員会	・6番目、静岡病院へ救急で来るなら直接来てほしい。伊東の場合消防車が必ず伊東市民病院へ寄ってから来るのはけしからん。その間に死んじゃう、とまではいいませんが、つけ足しは大体私の私見です。7割程度はご本人が知っているということで、都合の悪いことは私が責任をもちます。 ・済みません。それは前回の議事録に詳しく書いてあるので、端的に2つだけ回答させてください。それで打ち切ります。まず、白浜に優秀な診療所があって、病院の勤務医よりもはるかに経験も豊富で優秀な医師がいるということは十分承知しております。渡邊医師会長が知っているように、医師会との協力を極めて強化するということは、恐らく答申に盛り込まれるようなことになる。	http://www10.ocn.ne.jp/~minatohp/data/no2.pdf
平成20年10月17日	第2回共立湊病院改革推進委員会で配布された「順天堂大学付属静岡病院院長のご意見」と題する文書	下線などは原本には無い物。なお共立湊病院は順天堂大学付属静岡病院の初期研修における協力病院になっている。 http://www.juntendo.org/rot/01/item/2007program.pdf の21ページを参照の事	http://kinojun.cocolog-nifty.com/01.png
平成20年10月18日	医療経営財務協会ホームページ記事	共立湊病院問題のかけで、地域医療に貢献している医師の姿をみる・・・ 『共立湊病院問題のかけで 地域医療に貢献している医師の姿をみる・・・地域医療振興協会の医師たちの献身的努力にも改めて敬意を表する・・・10年前の原点に反って 地域医療振興協会の幹部は都市進出方針を再考して欲しい。第2徳洲会などを目指さない・・・』	http://www.izai2.net/sinrai.html
平成20年10月18日	東日本税理士法人ホームページ記事	西伊豆地区に根差す、週末限定クリニック 眼科“空白地帯”に5年 『共立湊病院問題のかけで 地域医療に貢献している医師の姿をみる・・・地域医療振興協会の医師たちの献身的努力にも改めて敬意を表する・・・10年前の原点に反って 地域医療振興協会の幹部は都市進出方針を再考して欲しい。第2徳洲会などを目指さないで欲しい。 非課税となる公益社団法人を目指すためには過疎地での大いなる貢献が条件となることも考慮されるべきである』 困っている人を助けることこそ医療」と地域医療の重要性を訴える 大高院長は、最新の機械を投入し総合病院にもひけを取らないクリニックを開院した。知り合いの眼科医三人に声を掛け、当番を決めて診察している。』	http://higashinohon-group.com/news/post_715.html
平成20年10月20日	医療経営財務協会ホームページ記事	湊病院の運営巡り「改革推進委」が協議 移転経費負担など 南伊豆町議会の全議員でつくる地域医療問題調査特別委員会（保坂好明委員長）は十七日までに、同町湊の共立湊病院を運営する社団法人「地域医療振興協会」の幹部ら三十七人に対し、理事会の議事録開示を求めた公開質問状の返答が期日までに一件も無かった・・・	http://www.izai2.net/meguri.html
平成20年10月20日	東日本税理士法人ホームページ記事	共立湊病院運営「地域医療振興協会」幹部らへの質問状、返答なし?南伊豆・地域医療問題調査特別委 2008.10.18静岡新聞 南伊豆町議会の全議員でつくる地域医療問題調査特別委員会（保坂好明委員長）は十七日までに、同町湊の共立湊病院を運営する社団法人「地域医療振興協会」の幹部ら三十七人に対し、理事会の議事録開示を求めた公開質問状の返答が期日までに一件も無かったことを明らかにした。 特別委は、協会の理事長が二月に開かれた同病院の運営会議で、運営撤退の意向が協会の理事会で決まったという内容の発言があったことを重要視。事実確認を目的に議事録の提示などを求めていた。同様の要求は病院を管理する一部事務組合も行ったが、協会側は対応していないという。 特別委は書面で「指定管理者制度の信頼関係にも遺憾を残す。今後の契約や協定の見直しにも言及せざるをえない」と表明している。	http://www.higashinohon-group.com/iichitai_topics/kvouritumi_nato_topics/002476.html
平成20年10月21日	賀茂医師会定例理事会	新病院を紹介型病院としなければ賛成できないと全員一致で決議したとされる。(共立湊病院小田院長は欠席)	賀茂医師会報より
平成20年10月21日	東日本税理士法人ホームページ記事	第2回豊川市民病院改革プラン策定会議 静岡県の伊豆下田の共立湊病院の改革委員長をしていますが、地域医療振興協会が撤退するというショッキングな話がありました。先日、適正病床数はいくつかという議論になった時、委員の1人で医科歯科大学の理事をしていた亀田総合病院の亀田理事長がER式の病床にすれば30床でもいいと言ったのです。病床数ではないのです。ここは絶対的に不足していますから、愛知県が命令でも出してくれなければ、新城市は破綻するまで結論出せないだろうとみています。結局医師がいなくなって、外科系だけで市民の需要に応えられるか。応えられるわけがない。夕張市みたいに本当に破綻すれば、国の指導どおりにやってもらう。指定管理者へ移行した病院といたしましては、平成16年12月に社団法人地域医療振興協会を指定管理者とした奈良病院、17年4月に日本赤十字社を指定管理者とした横浜市立みなと赤十字病院、18年2月に聖マリアンナ医科大学を指定管理者とした川崎市立多摩病院があります。	http://www.higashinohon-group.com/data/data_i/i081203_1.pdf
平成20年11月5日	共立湊病院小田院長が、順天堂大学付属静岡病院院長に、第2回改革推進委員会で配布された文書の真意を問う手紙を送る。	後日30分にわたり電話で詳細に回答された。「診療所に毛の生えた病院などとは絶対に言っていない。あんな事を書かれるならもう答えない」と怒っておられたとの事。(小田院長談)	
平成20年11月11日	第5回湊病院将来構想調査特別委員会	第2回共立湊病院改革推進委員会までの進捗状況及び会議内容の確認。	
平成20年11月21日	第3回共立湊病院改革推進委員会	第3回 共立湊病院改革推進委員会 議事録	http://www10.ocn.ne.jp/~minatohp/data/kaikaku-no3.pdf
平成20年11月21日	改革推進委員会答申書		http://www10.ocn.ne.jp/~minatohp/data/kaikaku-toshin.pdf

平成20年11月21日	改革推進委員会答申時の記者会見	○記者 地域医療振興協会の対応について批判的ですが…… (個別質問) ○会長 共立湊病院で勤務している、地域医療振興協会の医師の献身的努力に対しては繰り返し、委員会において、深く敬意を表している。私が批判しているのは、協会本部の経営体質である。地域医療振興協会が設立目的に忠実に準拠して指定管理者としての責任を過疎地でこそ果たしてほしいと考えています。公益社団法人として認定を受けるなら、収入は適正費用を超えてはならないことにも留意して、国民の批判を受けない様な事業活動を行う必要があります。	http://www10.ocn.ne.jp/~minatohp/data/kaikaku-no4.pdf
平成20年11月22日	医療経営財務協会ホームページ記事	下田 湊病院問題 改革推進委が答申「23年3月までに竣工を」 産婦人科含め七科目、150床規模 同改革推進委員会は①新病院建設②その他必要事項に関する検討結果の委嘱を受け、9月20日第一回、10月17日に第二回、最終の第三回委員会で答申をまとめた。新病院の経営形態については地域医療振興協会が指定…	http://www.izai2.net/syunkou.html
平成20年12月9日	賀茂医師会定例理事会	共立湊病院小田院長から前回の理事会での「新病院を紹介型病院としなければ賛成できない」との決議を削除するようにとの意見が出されたが、方針の変更は無いと確認された。	賀茂医師会報より
平成20年12月13日	一部事務組合議会全員協議会		http://www10.ocn.ne.jp/~minatohp/data/gijiroku/gikai/h20.12.13zenkyo
平成21年1月8日	第6回湊病院将来構想調査特別委員会/議会全員協議会	共立湊病院改革推進に関する答申書の検証。	
平成21年1月20日	一部事務組合運営会議		http://www10.ocn.ne.jp/~minatohp/data/gijiroku/uneikaigi/h21.1.20uneikaigi.pdf
平成21年1月20日	医療経営財務協会ホームページ記事	共立湊病院組合議会全員協議会会議録 『共立湊病院(社)地域医療振興協会について 2008年2月には減価償却の一部の5千万の負担を3千万にすること、一年以内に建…撤退の問題で確認しておきたいのは、南伊豆町の地域医療調査特別委員会で(社)地域医療振興協会の理事全員に理事会をいつ…	http://www.izai2.net/b.html
平成21年1月22日	組合議会先進地研修視察 町立三春病院・常陸大宮済生会病院	病院建設全般及び病院運営形態の調査研究、指定管理者の在り方	
平成21年1月22日	平成20年度共立湊病院組合議会視察研修報告書		http://www10.ocn.ne.jp/~minatohp/data/gijiroku/gikai/h20shisatuhoukouku.pdf
平成21年1月22日	医療経営財務協会ホームページ記事	地域医療振興協会への厳しい批判…傲慢経営姿勢!!	http://www.izai2.net/gou.html
平成21年1月26日	共立湊病院運営協議会		http://www10.ocn.ne.jp/~minatohp/data/gijiroku/uneikyougikai/h21.1.26uneikyougikai.pdf
平成21年1月27日	医療経営財務協会ホームページ記事	静岡新聞 委員会報告 評価・賀茂地区の首長たちが昨年県に答申(委員… 昨年二月、自治医大OBでつくる同病院の指定管理者「地域医療振興協会」の“撤退宣言”に端を発した協議は現在、外部専門家で構成された「病院改革推進委員会」の答申に沿って検討されている。病院管理を担う関係者たちには、「地域に必要な医療を提供…	http://www.izai2.net/negai.html
平成21年1月30日	第7回湊病院将来構想調査特別委員会	運営会議・運営協議会の報告及び検討、研修視察報告書の作成。 医師会長との意見交換。(病診連携、産科及び有床・無床診療所の採算性等の検証) 指定管理者の公募及び設計施工プロポーザル競技の実施について確認。	
平成21年2月	月刊地域医学に小田院長のインタビュー記事が掲載される		http://www.iadecom.or.jp/pdf/gekkanchiikiigaku/23_2.pdf
平成21年2月3日	医療経営財務協会ホームページ記事	経営再建のため運営が医療法人の指定管理者に変わる方針の 榛原総合病院 県内では、伊東市民病院が開設者を伊東市としたまま、社団法人地域医療振興協会が指定管理者として運営している。南伊豆町の共立湊病院でも指定管理者を公募しているという。市役所の情報 市長が語る 牧之原緑茶トーク 榛原総合病院説明会[2009年3月2日]	http://www.izai2.net/kiru.html
平成21年2月7日	医療経営財務協会ホームページ記事	共立湊病院組合議会 視察研修報告書 -9月16日 地域医療振興協会と自治医大は別の団体であり、共立湊病院は、現在自治医大の全国に8つしかない重点・拠点病院に指定された施設である。…自治医大と地域医療振興協会は別の団体であり、同協会の運営している病院もすべて支援しているわけではない。	http://www.izai2.net/setumen.html
平成21年2月9日	第8回湊病院将来構想調査特別委員会/議会全員協議会	中間報告書作成協議及び新病院建設予定地の取り扱い。	
平成21年2月26日	組合議会2月定例会議事録	地域医療振興協会への批判。改革推進委員会経費の事後承認。(委託料および報酬・旅費687万5千円、会場使用料5万5千円、改革ガイドラインに伴うプラン作成費210万円、合計903万円)	http://www10.ocn.ne.jp/~minatohp/data/gijiroku/gikai/H21.2teirei.pdf
平成21年2月26日	湊病院将来構想調査特別委員会中間報告書(第2号)		http://www10.ocn.ne.jp/~minatohp/data/chukanhoukoku-2gou.pdf
平成21年2月28日	医療経営財務協会ホームページ記事	共立湊病院に対する今後の静岡県の対応について 昨今の今頃に地域医療振興協会から今の地域では交通に不便であり、施設も老朽化が進んでいる、加えて周辺の人口も減ってきて…おかげさまで国立病院の地方委譲以降10年余にわたって地域医療振興協会がこれを引き受けて立派な病院運営をした結果ですわ、..	http://www.izai2.net/kakuiyu.html
平成21年3月3日	一部事務組合議長が地域医療振興協会に要望書を提出	湊病院の運営で得られた利益等を新病院建設のために寄付するように求める要望書。 地域医療振興協会は6月12日付で応じられないと回答した。	http://www10.ocn.ne.jp/~minatohp/data/gikaiyoubousyo-h21.3.pdf

平成21年3月9日	東日本税理士法人ホームページ記事	過去十年間で約十七億円の利益を得たとされる指定管理者「地域医療振興協会」(東京都)について、横嶋隆二議員(南伊豆町)が公益法人としての同協会の在り方をたじた。鈴木管理者は昨年の契約交渉の際、協会が求めた負担金の減額に応じた経緯に触れて「公益法人としての姿勢が問われる残念な結果だ」と述べた……	http://www.higashinihon-group.com/jichitai_topics/kyouritumi_nato_topics/002801.html
平成21年3月10日	テレビ東京番組 ガイアの夜明け『“命の絆”を再生せよ ～崩壊寸前“地域医療”を追う』		http://www.tv-tokyo.co.jp/gaia/backnumber/previaw090310.html
平成21年3月11日	新城市長ブログ 新城市民病院はこれからどうなるのか?	「ご覧になった方は、お分かりになっただろう。新城市民病院は民営化など経営形態の変更を受け入れなかったため、今も赤字が続く。救急患者を受け入れることができていないのだ、と、そう主張する番組だ。現場の努力を前向きに評価するのではなく、病院の否定面を強調するためにいろいろな場面が構成されていくだろう。」	http://www.city.shinshiro.lg.jp/index.cfm/1,9921,120,816.html
平成21年3月12日	医療経営財務協会ホームページ記事	湊病院将来構想調査特別委員会 中間報告書 地域医療振興協会は、過去の受託経過において医師会との連携に消極的であったと考えられる。… 地域医療振興協会は、こうした意見に「湊の利益は他へは持っていけない、湊の為に使う。」と説明してきたが、新病院建設の方向性が示された現在、当初の	http://www.izai2.net/tokubetu.html
平成21年3月17日	一部事務組合新病院建設構想の概要		http://www10.ocn.ne.jp/~minatohp/data/shinbyouin-kennsetu- http://www.izai2.net/tanna.html
平成21年3月20日	医療経営財務協会ホームページ記事	①病院改築後、公立丹南病院を長期に運営するとの契約について、地域医療振興協会は合意していない。 ②病院運営にて赤字を出した場合、その赤字は地域医療振興協会ではなく、鯖江市がかぶるとの、答弁です。 地域医療振興協会が、都市部の病院運営にスタンスを移したのは、鯖江市が第一号でした。そして、伊豆半島の先端にある共立湊病院の運営から、地域医療振興協会は手を引くと宣言したことは有名です。 このことを、勘案しながら、病院の躯体と運営の基本設計を再度、鯖江市民の手によって行うべきです。	
平成21年3月31日	共立湊病院改革プラン		http://www10.ocn.ne.jp/~minatohp/data/kaikaku-plan.pdf
平成21年4月?	大久保婦久子さんに関連した寄附金を新病院のために利用する話がどこからかわきあがる	PDF23ページ、52ページ 平成21年12月16日の産業厚生常任委員会議事録により、寄附金の話をもちかけたのが、長隆氏らである事が判明した。	http://www.city.shimoda.shizuoka.jp/mpsdata/web/4825/211217honbun.pdf
平成21年4月頃	改革推進委員長であった長隆氏が、もう一つの応募法人を訪れ、公募に応じるよう依頼した		関係者より聴取
平成21年4月1日	新病院指定管理者選定委員会設置要綱		http://www10.ocn.ne.jp/~minatohp/data/shinbyouin-youkou.pdf
平成21年4月1日	第1回新病院指定管理者選定委員会のご案内		http://www10.ocn.ne.jp/~minatohp/data/tsuti-
平成21年4月5日	第1回新病院指定管理者選定委員会		http://www10.ocn.ne.jp/~minatohp/data/gaiyo-dai1kaisiteikanrisky.pdf
平成21年4月6日	医療経営財務協会ホームページ記事	共立病院組合では平成23年4月開院を目標に新病院計画を進めています。 開院に先立ち、現在指定管理者である地域医療振興協会へ、下記要望書が公開されました。… 共立湊病院は、平成9年10月より貴(社)地域医療振興協会に管理運営を受託していただき、新たな地域医療を担う病院として再出発してきました。..	http://www.izai2.net/jyutaku.html
平成21年4月9日	一部事務組合代表が大久保婦久子さんに関連した寄附金5000万円を共立病院の前進のために出して欲しいと関係者に要望	PDF14ページ	http://www.city.shimoda.shizuoka.jp/mpsdata/web/4825/211217honbun.pdf
平成21年4月17日	医療経営財務協会ホームページ記事	南伊豆町、現町長(鈴木氏)の考えは… (2)主要産業の観光振興策について教えてください。(3)共立湊病院の移転計画が進む中、町内の医療確保策はどのように考えていますか。(4)十年後の町(地域)のあるべき姿を展望してください。◆塚本誠二郎氏(無新、64歳) …	http://www.izai2.net/sangyo.html
平成21年4月20日	地域医療振興協会が新病院の指定管理者に応募するための最低条件を一部事務組合に提示。	1)新病院の延床面積は9000平方メートル、建設費は17億円以内と計画されているが、公立病院としての二次医療圏の中核的な機能を果たすこと、耐震性を備えたものとするを考慮すると、建設費の額が少なく、見直しを行うこと。 2)医療機器整備費が4億円とされているが、相当な額の上乗せを行うこと。 3)減価償却費の負担について、建設費の元利償還金の一部は後年で地方交付税で措置されるものであり、指定管理者が全額負担することは困難であること。 4)公立病院の運営には地方交付税による財務措置がされており、財務措置された額は病院の運営費として交付されること。 5)新病院の建築設計に関し、指定管理者としての意見を十分に反映させること。	
平成21年5月9日	大衆日報第17514号	▼長隆・元総務省公立病院改革懇談会座長の話 自治医大の系列で、社団法人地域医療振興協会というのがあがる。5年ぐらい前まではかなり過疎地で貢献していた団体が全国で40経営している。しかし最近では都市医療に体質を変えている。本来なら自治医大は毎年50億円以上各都道府県が出している金で過疎地の勤務医を育てる大学。そこが最近では市川浦安市民病院(400床)など都心に進出している。私が関与をしている共立湊病院は、地域医療振興協会が進出した第一号の病院だが、利益が出なくなったので撤退を表明した。地域医療振興協会はお金を山ほど積まないと出てこないだろう。	http://choushishimin-side.hp.infoseek.co.jp/091300sonota_nojyohou_shuttentosaikai.html
平成21年5月11日	新病院指定管理者公募のお知らせ	予定によると第3回選定委員会は公開と書かれていた。	http://www10.ocn.ne.jp/~minatohp/data/shiteikannrisky/kouboosirase.p
平成21年5月11日	新病院指定管理者選定要領		http://www10.ocn.ne.jp/~minatohp/data/shiteikannrisky/senteiyokou

平成21年5月11日	新病院指定管理者の指定条件		http://www10.ocn.ne.jp/~minatohp/data/shiteikannrisya/shiteijouken.pdf
平成21年6月2日	新病院指定管理者選定委員会開催のお知らせ	第3回新病院指定管理者選定委員会【公開】 4. 議事 (1)新病院指定管理者応募者とのヒヤリング調査 (2)新病院指定管理者選定評価及び選定結果の公表 (3)その他[質問形式による記者会見を予定]	http://www10.ocn.ne.jp/~minatohp/data/shiteikannrisya/kaisainittei.pdf
平成21年6月4日	一部事務組合議長が寄付要望書への回答を催促	6月14日までに文書での回答を求める	
平成21年6月6日	医療経営財務協会ホームページ記事	社団法人地域医療振興協会(以下協会)は 公益社団法人に移行できないのではないかと(協会にとっては公益社団法人は極めて高いハードル) 公益法人としての自覚が零である	http://www.izai2.net/hiya.html
平成21年6月7日	医療経営財務協会ホームページ記事	2年後竣工 共立湊病院(下田市駅徒歩10分)150床 敷地面積 ... “医療過疎”とされる半島地域で、新規団体の参入も視野に入れた試みが果たして成功するのだろうか。19日締め切りの公募結果が目玉されている。* * 同病院は1997年の開院以降、自治医大出身者らでつくる地域医療振興協会(東京都)が一貫して運営 ...	http://www.izai2.net/nai.html
平成21年6月12日	地域医療振興協会が一部事務組合からの寄付要望に対して応じられないと回答		
平成21年6月15日	医療経営財務協会ホームページ記事	銚子を引き受ける地域医療振興協会は公的な大学の天下り組織と感じられる。また新たなお金の迂回路ではないのか。 銚子は、地域医療振興協会がやるということだが、彼らは基本的にリスクを負わないはず。病院としてすぐに再開するのは不可能。それはコメディカルスタッフが全員辞めてしまっているから。そのうえで医師数人の外来からということも可能だろう。しかし、徐々に大きくすることを考えているなら、今と同じように赤字を出すことになる。その負債を抱えたと分かったうえで市民が支えていくのでないと再開は不可能だろう。市からの負担は相当のものになると予測される。 銚子を引き受ける団体は公的な大学の天下り組織と感じられる。また新たなお金の迂回路ではないのか。 [亀田] あそこのことをよく知っているわけではない。自治医大OBの方々がやっているというぐらい。それよりは移管の仕方が問題だろう。安房医師会病院は負債も含めて全責任を負う形で受けた。しかし今回の銚子はオペレーション委託だと思う。赤字は市が負うことになるだろう。そうであれば、前と同じで市のリスクは変わらないと思う。	http://www.izai2.net/manin.html
平成21年6月15日	ブログ 光をめざしての記事	野平新市長さま、南伊豆町の共立湊病院の実態をご存知ですか！(地域医療振興協会とは)	http://blog.livedoor.jp/mark22003/archives/51216591.html
平成21年6月16日	医療経営財務協会ホームページ記事	公益法人として『僻地保健医療対策費』の名目で補助金をうけとり、手厚い税金の投入で医師の養成をおこなう自治医科大学が母体となった振興協会が、南伊豆町においては過疎地からの医療の撤退を脅しの材料として利用し、自らに有利な契約を結ばせようとしてきたことにたいして、公益法人にあるまじきことへの憤りの声が地元住民の間に渦巻いている・・・ このようにへき地医療を担うための公益団体であることを看板にしている振興協会であるが、実態は厚生労働省や総務省などの元官僚6人が理事を務めている天下り団体であり、上記の『へき地保健医療対策費』も事実上、天下り団体にたいする補助金という性格を否定できない。 赤字とは言うものの、実態は振興協会側が湊病院会計に巨額の未処分利益剰余金(収益金を貯金したものの内部留保の一種)を溜め込んでいたことが後日になって判明し、その時点での剰余金はゆうに10億円を超えていたという。 また、この共立湊病院で病院長が二日酔い診療という不祥事を起こしている逸話は地元では有名な話である。 この病院長は振興協会の組織内では吉新理事長に告ぐナンバー2に地位にあるが、この先生はお酒が好きらしく、前夜に深酒をし、二日酔い状態で患者の診療にあたったという。 これはたんなる地元住民の間での風評話にとどまるものではなく南伊豆町の議会でも取り上げられた事実である。 また、他にもこの病院をめぐる地元での否定的な風評話は数多いと聞く。 南伊豆町HPのなかに議会だよりのバックナンバーあり(共立湊病院に関する論議が記録されている) 銚子市の厳しい財政事情や巨額の市民負担のことを考えれば、地域医療振興協会の銚子市の足元を見透かしての行き過ぎた建て替え要求に絶対に応ずべきではない。 そして、この地域医療振興協会は近年に営利的な経営姿勢が目立ち始め、へき地医療を中心とした公益法人という看板に総務省や厚労省をはじめとして各方面で疑問が投げかけられはじめている。 また、世間ではこの営利化した地域医療振興協会のことを第2徳州会と揶揄する人もいる	http://www.izai2.net/teigi.html
平成21年6月19日	指定管理者の公募を締め切り		http://www10.ocn.ne.jp/~minatohp/data/shiteikannrisya/koubokekka.pdf
平成21年6月20日	第2回新病院指定管理者選定委員会(非公開)	会議が非公開	

平成21年6月21日	医療経営財務協会ホームページ記事(東日本税理士法人ホームページにも同内容の記事あり。)	共立湊病院を現在運営する社団法人「地域医療振興協会」(東京都)は指定管理者応募を辞退・・社団法人地域医療振興協会が経営を受託している多くの公立病院指定管理者のなかで重要度トップ・象徴的存在である共立湊病院からの撤退は大きな波紋を呼ぶであろう。 予告どおり応募辞退となりましたが、2医療法人が組合の示す条件を100%受け入れ、減価償却費を全額負担し、赤字補填不要としています。 多額な国費投入を受けている、自治医科大学と、公益法人である地域医療振興協会は「現在の地でこれ以上やるのでは、患者数減に歯止めはかけられぬ。あくまで主張するなら直営か他の団体をお願いしてくれ」という話を今までして来ました。レゾンデートル raison d'être「存在理由」あるいは「存在意義」が問われる。 自治医大の卒業生の過半数が、地域医療振興協会の運営に疑問を持ち社団法人へ加入していないとの情報もあながち嘘ではなさそうである。	http://www.izai2.net/ha.html
平成21年6月22日	第3回新病院指定管理者選定委員会開催時間変更のお知らせ	会議の開始時刻が1時間遅らされ、議事からヒアリングが削除された。指定管理者応募者とのヒアリングは事前に非公開で実施すると追記された。その結果選定過程は全て非公開になった。 4. 内容 (1)新病院指定管理者選定結果を管理者に提出 (2)新病院指定管理者選定評価及び選定結果の公表 (3)その他[質問形式による記者会見を予定] ※指定管理者応募者とのヒアリング調査は、事前に非公開で実施いたします。	http://www10.ocn.ne.jp/~minatohp/data/shiteikannrisya/dai3kaikaisaihenkou.pdf
平成21年6月23日	南伊豆地区1市3町合併協議会解散		http://www.mizu13gk.jp/pdf/10_10.pdf
平成21年6月28日	第3回新病院指定管理者選定委員会	ヒアリングでは、聖勝会理事長がアドバイザーが長氏であると発言。委員からは聖勝会の病院計画の人員費が極端に高額で有る事(医師年収2400万円ほか)、10年間赤字続きの財務計画であること、運転資金の確保に懸念がある事などが指摘され、「事務所がついているわりには大雑把」との評価を受けていた。一方対立候補については、(公募条件には書かれていない)産婦人科についての提案が無い事に、何故か厳しい意見が出ていた。(第1回選定委員会において伊東委員長は、産婦人科を設置するなら小児科も充実させる必要があり、この地区では難しいのでは無いかとの見解を述べていた。)	文書送付嘱託でヒアリング議事録を入手
平成21年6月28日	共立湊病院新病院指定管理者選定結果報告書	・選定法人 社団 聖勝会 ・適任者がいなければ再募集すればいいという考えもありますが、(社)地域医療振興協会が撤退することが決定し、期限が迫る中で、簡単にこれに代わる法人が出てくるという確証はありません。また、そのことにより病院施設の減価償却費を指定管理者が100%負担する、という病院経営方針の根幹をなす公募条件を緩和せざるを得なくなりかねず、病院組合が示した公募条件の信頼性を低下させ、收拾がつかなくなる懸念があります。 ・選定された法人は理事長が賀茂地区医師会長の同席を得て、医師会と連携して全力で取り組む、医師会も指定管理者を全面的に支援するという姿勢をアピールしたことを評価しました。 ・選定法人が選定されたのは、提案者の母校である聖マリアンナ医科大学や地区医師会の強力な支援があることが前提となっています。今回は時間の関係からやむを得ないとして、議会提案までの間にもう少し確証を得置く必要があります。 ・以上、独創的な反面、経験不足から多少不安な点も散見しますので、第二順位の法人は次点として位置付けておいた方がいいのではないかと考えます。	http://www10.ocn.ne.jp/~minatohp/data/shiteikannrisya/shinbyouinsenteeiinkaigyoumuhoukoku.pdf
平成21年6月30日	医療経営財務協会ホームページ記事	開院以来11年間にわたり 南伊豆で貢献してきた(社)地域医療振興協会が何故 公募に応じなかったかとの質問に 伊藤委員長は「わからない、こちらが聞きたい」と答弁。組合は 下田移転など(社)地域医療振興協会の要望どうり計画実行しているのだから公益法人として不参加の説明責任がある 特に 地域医療を守るため 日夜努力し住民の評価も高い従業員に納得できる説明をしたのであろうか？ 度重なる 組合等からの公式質問を無視し続ける理由などを 従業員のみならず 7万人の住民にきちんと説明すべきである	http://www.izai2.net/doryou.html
平成21年7月6日	ブログ 光をめざしての記事	共立湊病院と地域医療振興協会について(てらじい様のコメントへのご返事)	http://blog.livedoor.jp/mark22003/archives/51232408.html
平成21年7月7日	大久保婦久子基金として3000万円が下田市に寄附される		http://www.city.shimoda.shizuoka.jp/mpsdata/web/4825/211217honbu
平成21年7月9日	組合議会7月臨時会議事録	選定委員会事務委託費600万円、プロポーザル競技審査委員会事務委託費300万円、委員会開催に伴う食料費・会場使用料14万円とで、合計914万円の費用が承認された。 下田南高跡地の取得費用の企業債5億円は年利2.2%で30年償還(5年据置)。元利償還額の22.5%が交付税措置される。据え置き期間の5年間は年1100万円(うち交付税措置額247万5千円)、6年目以降は年2610万9千円(うち交付税措置額587万4千円)交付税措置以外の77.5%部分についての償還財源は病床150床に対する普通交付税(年額で8850万円)で充当する計画。	http://www10.ocn.ne.jp/~minatohp/data/giijroku/gikai/h21.7rinii.pdf

平成21年7月9日	一部事務組合特別委員会で聖勝会理事長が構想を語る	西川理事長「母校である聖マリアンナ医大の明石理事長の全面的な支援を受け、医師の配置、事務等を統括し一緒に運営していく。大学の地域支援医療学の教授となる野田先生が院長に着任する。病院も大学の教育関連施設に認定される予定。産婦人科は亀田ファミリークリニック館山と提携に合意している。平成16年～平成18年まで宮内庁侍従職待医を務めた武藤真祐先生を法人顧問に、賀茂医師会長と副会長も法人理事に選出した。」賀茂医師会長談、「明石理事長と西川理事長、渡邊賀茂医師会長は同じ医局の出身。大学の理事長も、他の所とは違う、全面的なバックアップをする。教室も作り、教授を院長に派遣する。当然教授が来ればその下の医師や研修医も。新しい地域医療のモデルケースにしたい。」	http://kinojun.cocolog-nifty.com/blog/2009/08/post-24ab.html
平成21年7月13日	医療経営財務協会ホームページ記事	(社)地域医療振興協会からの要望にこたえて下田市への移転新築を決定した同事務組合関係者の努力に報いようとせず、新病院の指定管理者の公募にも応じなかった同協会の行為は同事務組合と地域住民にたいする裏切りに他ならないように見えます。要望どおりに病院の移転新築が実現することになった以上、同協会がこの病院から撤退する積極的理由はなくなったはずであり、それでも新病院にかかる指定管理者の公募に応じなかったのは、結局この地域では利益が上がらず採算が取れないからということ以外に理由がないように思えます	http://www.izai2.net/ego.html
平成21年7月14日	賀茂医師会定例理事会	各理事から様々な意見があった。 ・医師会長が医師会員に説明なしに特定の法人を応援することは問題がある。 ・聖マリアンナ医大の知り合いの教授に尋ねたが、新病院への協力に関する事は教授会に出されていないとの事。 ・聖勝会の公募に出した計画は公募要件にあっていない。救急は十分にできない。経営は破たんするのではないか。医師会が出した紹介型病院では、病院経営はできないのではないか。 ・紹介型に関して、外来をやらない病院という話を、西川先生も理事として賛成し、医師会として提案をだしたはずだが、その件はどうなのですか。	賀茂医師会報より
平成21年7月21日	医療経営財務協会ホームページ記事	共立湊病院 指定管理者候補決定と地域医療振興協会(以下協会という) 協会が公募に応じなかった経緯が明らかになった。 7月初旬に行われた 賀茂医師会理事会において 協会常務理事 共立湊病院小田院長(加茂医師会理事)が次の様に述べた(賀茂医師会関係者の言) 1・公募に応じなかったのは 協会理事会の決定である。 2・院長としては 応募したかった。 尚 賀茂医師会理事会は 指定管理者候補(聖勝会)が正式決定すれば支援する(理事から異論は出なかった) (会長) 雇用者の立場を認識した責任を果たしていないという点でも、地域医療振興協会が撤退するなんていう突然の発言は無責任です。3月末に撤退するとか、3年で撤退するといっている。職員の身分がどうなるか発言していない。職員の不安を惹起して、動揺が始まる可能性が高い。次の経営者がはつきりさせなければならぬ。そういうことをきちんとできる指定管理者を早く公募しなければならぬ。建てかえなければ撤退するといっている。建てかえても、3年で撤退する可能性がある。確認せざるを得ない。 ○記者 地域医療振興協会の対応について批判的ですが……(個別質問) ○会長 共立湊病院で勤務している、地域医療振興協会の医師の献身的努力に対しては繰り返し、委員会において、深く敬意を表している。私が批判しているのは、協会本部の経営体質である。地域医療振興協会が設立目的に忠実に準拠して指定管理者としての責任を過疎地でこそ果たしてほしいと考えています。公益社団法人として認定を受けるなら、収入は適正費用を超えてはならないことにも留意して、国民の批判を受けない様な事業活動を行う必要があります。	http://www.izai2.net/sama.html
平成21年8月5日	医療経営財務協会ホームページ記事	共立湊病院 情報・佐々木憲昭議員 政府に要請 今年5月30日、私どもは厚生労働省に、旧国立湊病院の移譲を受けて設立された南伊豆町の共立湊病院で医療業務を受託している社団法人地域医療振興協会(以下、「協会」)が指定管理者の契約更新にあたって撤退を表明している件について、「協会」への…	http://www.izai2.net/gika.html
平成21年8月12日	一部事務組合全員協議会	河津、東伊豆、西伊豆、松崎の4町長が異論を唱えたが、組合議長である南伊豆町長が組合臨時議会に聖勝会を指定管理者として提案する方針を表明。	http://kinojun.cocolog-nifty.com/blog/2009/08/813-cff5.html
平成21年8月17日	一部事務組合臨時議会	構成6市町のうちの4首長の合意が得られず、管理者も一抹の不安がある事を認めながらも、時間の制約を理由に聖勝会を新病院の指定管理者とする事が提案、議決された。	http://www10.ocn.ne.jp/~minatohp/data/giuroku/gikai/h21.8rini.pdf
平成21年8月19日	医療経営財務協会ホームページ記事	銚子市立病院再生準備機構契約締結 しかしその条件を(社)地域医療振興協会は飲めないと言って南伊豆 共立湊病院の指定管理者を辞退した。… 第1回の会議は28日午後6時から東京で開催し、合わせて地域医療振興協会にもこれまでの経過を報告。9月30日までに県へ行程表を提出することを…	http://www.izai2.net/tinami.html

平成21年8月19日	東日本税理士法人ホームページ記事	銚子市長が「医師や看護師を雇う体制をつくると同時に経営的にペイする仕組みが必要だ」といいます。非常に厳しいことを言うと、仮に建物を新築した場合、その減価償却費を賃料として払ってくれる。赤字への経常費補助金は、国の制度的な支援以外は出さないという条件をのんでくれるようなところを探したいんです」と発言しているのは正しい。 しかしその条件を(社)地域医療振興協会は飲めないと言って南伊豆 共立湊病院の指定管理者を辞退した。 銚子市立病院再生準備機構の委員メンバーの中に公立病院再生の実績のある方が居られるのであろうか？機構の会議は全て公開で行わないと医師の供給元である大学など医療関係者の信頼は全く得られないであろう 銚子市議会は先月16日の臨時議会で、機構への着手金など3150万円の今年度一般会計補正予算案を可決。市は23日に機構と委任契約を結び、来年4月の暫定再開を目指している この種の委員会の費用は 総額で500万以下が多い。銚子市は全報酬の内訳を公開すべきである ちなみに、公立病院である共立湊病院の指定管理者選定までの経緯はすべて公開されている	http://higashinihon-group.com/iichitai_topics/post_1018.html
平成21年8月31日	組合議会8月定例会議事録	雇用問題について、不当解雇訴訟も絡めて地域医療振興協会の対応が批判される。	http://www10.ocn.ne.jp/~minatohp/data/giijiroku/gikai/h21.8teirei.pdf
平成21年9月1日	新病院建設設計施工プロポーザル競技審査委員会設置のお知らせ	後にこの委員会は東日本税理士法人グループの医療シス研への業務委託であった事が明らかになった。	http://www10.ocn.ne.jp/~minatohp/data/puropo-setti.pdf
平成21年9月2日	聖マリアンナ医大理事長は新病院を支援病院にはできないと回答	逆に、地域医療振興協会に協力を求めるべきと言われた。	http://kinoiun.cocolog-nifty.com/blog/2009/09/post-59f5.html
平成21年9月14日	第1回新病院移行協議会		
平成21年9月15日	共立湊病院職員アンケート結果	現病院の職員で新病院に勤務希望する者は誰もいなかった。	http://kinoiun.cocolog-nifty.com/blog/2009/09/post-a5e9.html
平成21年9月24日	下田市長が新病院開院が平成24年5月に延期になる見込みと発表		http://kinoiun.cocolog-nifty.com/blog/2009/09/11-
平成21年9月24日	一部事務組合運営協議会	http://kinoiun.cocolog-nifty.com/blog/2010/06/21924-2a84.html	http://kinoiun.cocolog-nifty.com/blog/cat20039602/index.html
平成21年10月13日	新病院建設プロポーザル競技の計画が発表される	新病院の基本構想が明らかになった。	http://kinoiun.cocolog-nifty.com/blog/2009/10/post-5912.html
平成21年10月27日	第2回新病院移行協議会		http://kinoiun.cocolog-nifty.com/blog/2009/10/2110272-1282.html
平成21年11月6日	新病院プロポーザル競技参加表明締め切り	7団体から応募があった。	http://www10.ocn.ne.jp/~minatohp/data/puropo/sankahyoumei.pdf
平成21年11月20日	聖勝会の西川理事長へのインタビュー記事が静岡新聞に掲載される	新病院への意欲を語る一方、「地元行政にも一緒に良い病院を築いていくような姿勢が欲しい。残念ながら今はまだその状態にはありません。…公立病院なのに、行政側には経済的なリスクがほとんどないことも疑問です。」との発言も。	http://kinoiun.cocolog-nifty.com/blog/2009/11/post-0f22.html
平成21年12月1日	地域医療振興協会が公益社団法人となる		
平成21年12月1日	地域医療振興協会が河津町内に伊豆総局を開設	上河津診療所開設準備・移転新築計画、賀茂郡内4診療所の管理等の業務を担当。	
平成21年12月5日	静岡新聞に「業者、見積もり未対応かー湊病院組合議会、事実関係を調査へ」との記事が掲載される	聖勝会が医療機器業者7社に依頼した見積りに対して2カ月経っても全社回答が無いという情報が流れた。(この時期に見積りを依頼する理由は不明。)	http://kinoiun.cocolog-nifty.com/blog/cat20039602/index.html
平成21年12月11日	新病院建設プロポーザル提案書締め切り		
平成21年12月16日	下田市議会産業厚生常任委員会	寄附金問題で紛糾。市当局の説明の中で、遺言執行者4名のうちの代表者が、寄附金を新病院の医師確保に使うという話しを了解していなかった事、他の一部事務組合構成首長に寄附金の話が伝えられていないこと、また寄附金の話を組合幹部に持ちかけたのが長隆氏であることが明らかにされた。	情報公開請求で議事録を入手。
平成21年12月17日	下田市議会が、大久保さんに関する寄附金のうち2000万円を、寄付講座の資金として一部事務組合に支出する事を可決。	一部事務組合側の受け入れについて確認がないまま可決された。またこの議事録の中で寄付講座の話が平成21年4月以前から始まっていた事、4月9日に一部事務組合幹部が寄附金を要望する文書を出し、新病院に大久保作品の展示室を作る事を協議中であると伝えた事が判明した。	http://kinoiun.cocolog-nifty.com/blog/2010/02/post-b25b.html
平成21年12月18日	聖勝会が指定管理者を辞退	・1市5町こぞって支援を得られると考えてきたが、考えを聞いてもらえない首長もいる。 ・医療機器の見積りが届かずこのままでは病院建設に影響する。「根拠は特に無いが、何らかの妨害が考えられる。」 ・西川理事長個人だけでなく医療スタッフが誹謗、中傷にまきこまれる心配もある。	http://kinoiun.cocolog-nifty.com/blog/2009/12/post-92ac.html
平成21年12月18日	聖勝会が配布したプレスリリース資料に関しての記事	非公開のはずの運営会議議事録が何者かによって聖勝会側に流されている事が明らかとなる。	http://kinoiun.cocolog-nifty.com/blog/2009/12/post-2674.html
平成21年12月20日	建設提案審査に伴う公開ヒアリングが延期	諸事情により	http://www10.ocn.ne.jp/~minatohp/new.html
平成21年12月23日	一部事務組合運営会議	聖勝会に再考を促すことは困難。新たな指定管理者を決める方針。公募に応じた第2候補者の意向を早急に確認する。現指定管理者の地域医療振興協会に対して要請は出なかった。	http://kinoiun.cocolog-nifty.com/blog/2009/12/2-2da0.html
平成21年12月25日	組合議会12月臨時会議事録	新病院事業調査特別委員会を設置するための臨時議会	http://www10.ocn.ne.jp/~minatohp/data/giijiroku/gikai/h21.12rinnii.pdf
平成21年12月25日	一部事務組合議会臨時議会において、新病院事業調査特別委員会(いわゆる百条委員会)が設立される		http://kinoiun.cocolog-nifty.com/blog/2009/12/post-ded7.html
平成21年12月25日	共立湊病院組合議会声明が発表される		http://www10.ocn.ne.jp/~minatohp/data/gikai-seimei.pdf

平成21年12月25日	第1回新病院事業調査特別委員会	正副委員長選出、調査事項の確認他	
平成22年1月8日	もう一つの公募法人(名称非公開)が指定管理者を受けようとする意志が無いと返事	「当時とは状況が違うので公募にはお応えできない」と言われた。	http://kinojun.cocolog-nifty.com/blog/2010/01/2-
平成22年1月8日	第2回新病院事業調査特別委員会	記録提出請求に関する事項の協議、その他	
平成22年1月12日	地域医療振興協会 河津町(旧稲葉医院)に上河津診療所を開設	週2日だけの診療	
平成22年1月18日	第3回新病院事業調査特別委員会	提出記録の確認および協議、その他	
平成22年1月20日	組合議会運営会議(首長会)	地域医療振興協会への意向調査を行う事を決定	http://kinojun.cocolog-nifty.com/blog/2010/01/2-
平成22年1月22日	組合正副管理者が共立湊病院長を訪れ、指定管理者受託の意向があるか尋ねた	小田院長は2月4日の理事会を経てから回答するが、公募条件がそのままでは厳しいとの見解。	http://kinojun.cocolog-nifty.com/blog/2010/01/2-ab08.html
平成22年1月22日	第4回新病院事業調査特別委員会	提出記録の確認および協議、その他	
平成22年1月28日	第5回新病院事業調査特別委員会	提出記録の確認および協議、証人訊問について	
平成22年2月1日	第6回新病院事業調査特別委員会	証人訊問3名・証言内容の精査	http://kinojun.cocolog-nifty.com/blog/2010/02/25-
平成22年2月1日	下田市議会有志が地域医療振興協会に継続を求める要望書を提出		http://kinojun.cocolog-nifty.com/blog/2010/02/8-
平成22年2月4日	下田市議会有志が地域医療振興協会の運営継続を求める市民2386名の署名を協会に提出		http://kinojun.cocolog-nifty.com/blog/2010/02/post-c4a5.html
平成22年2月4日	第7回新病院事業調査特別委員会	証人訊問1名・証言内容の精査、参考人について	
平成22年2月4日	地域医療振興協会理事会		
平成22年2月5日	地域医療振興協会が「意向確認」への回答を記者会見で発表	100条委員会の結果を待つと同時に、組合議会、市町村議会、管理者、副管理者の間で、意見集約をしていただいた上で改めて検討したいと回答。	http://kinojun.cocolog-nifty.com/blog/2010/02/post-f45d.html
平成22年2月8日	第8回新病院事業調査特別委員会	参考人1名・その他	
平成22年2月11日	組合議会全員協議会	管理者(南伊豆町長)から経緯説明があった。	http://ameblo.jp/ken-shinohara/entry-10459501443.html
平成22年2月15日	第9回新病院事業調査特別委員会	証人訊問2名・その他	
平成22年2月17日	第10回新病院事業調査特別委員会	証人訊問1名・その他	
平成22年2月19日	組合議会定例会	管理者の南伊豆町長は今後の指定管理者の選定について「あらゆる選択肢を視野に入れ早急に対処する。」と答弁。百条委員会の中間報告では医療機器の納入見積りなど関係者の聴取を行い、次回定例会までに結果を纏めると報告された。	http://kinojun.cocolog-nifty.com/blog/2010/02/22219-10a4.html
平成22年2月19日	組合議会定例会議事録		http://www10.ocn.ne.jp/~minatohp/data/gijiroku/gikai/H22.2teirei.pdf
平成22年2月19日	新病院事業調査特別委員会 中間報告	中間報告書は議会傍聴者や報道機関には配布されなかった。	
平成22年2月24日	東伊豆町議会定例会	太田町長は「賀茂医療圏にあり新しい共立湊病院が早くたちあがってほしいと願っている。ただ、運営面で町への負担が多くなる場合は伊東市民病院への対応も考える必要が出てくるかも知れない」と答弁。	
平成22年2月24日	一部事務組合がジャパンメディカルアライアンスに指定管理者を受託を依頼	組合関係者がジャパンメディカルアライアンス本部を訪問	http://kinojun.cocolog-nifty.com/blog/2010/06/ima-
平成22年2月26日	南伊豆町長定例記者会見	3月末までに方向性を決めたいと発言。	http://kinojun.cocolog-nifty.com/blog/2010/02/3-
平成22年3月2日	下田市長と地域医療振興協会理事長、湊病院院長が非公式に会談	非公式のオフレコの会談。	
平成22年3月5日	下田市議会の一般質問の答弁で、下田市長が地域医療振興協会が暫定的に継続の意向と述べた	現指定管理者の地域医療振興協会が、同病院の新体制が整備されるまでの間、病院運営を継続する意向を示していると述べたが、それは会談内容の拡大解釈に基づくすり替えだった。	http://kinojun.cocolog-nifty.com/blog/2010/03/post-280e.html
平成22年3月	一部事務組合構成市町議会で湊病院問題に関する質疑が展開された。	寄付金の扱い、地域医療振興協会のつなぎ、指定管理者捜しの現状、河津町新病院構想、下田移転に反対する医師、減価償却全額負担条件の見直し などの話題が取り上げられた。	http://kinojun.cocolog-nifty.com/blog/2010/03/post-b433.html
平成22年3月8日	下田市議会で土屋誠司議員への市長答弁	答弁の中で、かつて提案されたという地域医療振興協会と静岡県による病院計画を批判。平成21年4月に提出された協会の要望書は法外な要望であるとの解釈や、組合のほうの判断で、ただ受け付けておいたという形にして、運営会議には出さなかった事などを明かした。	http://kinojun.cocolog-nifty.com/blog/2010/06/2235-24be.html
平成22年3月9日	河津町議会の一般質問の答弁で、河津町長が単独での新病院建設への決意を表明	「(共立とは)別の病院を河津町につくる。不退転の決意で臨む。」 現在同町や隣接する東伊豆町に2次救急病院を担う施設が無いことから「町民の命を守るため、別個に病院建設に取り組む。」	http://kinojun.cocolog-nifty.com/blog/2010/03/post-f1f1.html
平成22年3月9日	南伊豆町男女共学塾が現在地での継続を嘆願する署名を湊病院に提出	「急病人を受け入れる医療機関が無くなると町民はもちろん観光地としてイメージダウンになる。現在地へ耐震補強して病院運営を続けることなどはできないか」と要望した。	http://kinojun.cocolog-nifty.com/blog/2010/03/post-99f6.html
平成22年3月	ジャパンメディカルアライアンスによる現地確認		
平成22年3月29日	第11回調査特別委員会	最終報告にむけた整理検討・その他	
平成22年4月2日	聖勝会の辞退で延期されていた新病院建設プロポーザル競技公開ヒアリングを4月10日に実施すると一部事務組合正副管理者が発表し	次期指定管理者不在の状況で、設計施工業者選定を進める方針が表明された。各首長や議会の同意を得ないままの強行。	http://kinojun.cocolog-nifty.com/blog/2010/04/410-4c63.html
平成22年4月5日	共立湊病院新病院建設プロポーザル競技公開ヒアリングのお知らせ		http://www10.ocn.ne.jp/~minatohp/data/puopo/h22.4.5open-
平成22年4月5日	医療経営財務協会ホームページ記事	静岡県&総務省の協力を得て共立湊病院の下田市移転・新築計画4月10日には建設業者も決定する見込みであるにも拘わらず開設者でもある河津町の桜井泰次町長は強硬に反対している。別の2次救急病院を 事もあろうに 湊病院の指定管理者である公益認定法人である地域医療振興協会と共同で河津町に不退転の決意で新設する強い意欲を示している 河津町長が 新設するというのであるから 公立病院であって 起債を想定しているようであるが 違法であるから 総務省は絶対に起債に同意しないと断言できる。 地域医療振興協会が 理事会決定で共同行動をとるなら 内閣府は 公益認定を取り消す事になるであろう。	http://izai2.net/kowasou.html
平成22年4月10日	共立湊病院新病院建設プロポーザル競技公開ヒアリング		

平成22年4月10日	医療経営財務協会ホームページ記事	ヒアリングの内部情報を掲載。「出席業者は7社でどれもすばらしい提案でした。免震にしてもらったほうが安心との意見があり、その提案があった業者を中心に施工業者を決定することになります。4月19日(月)に下田にて施工業者の発表と記者会見が執り行われる予定です。」その後この記事は削除された。	http://webcache.googleusercontent.com/search?q=cache:N5UPemOdBDOJ:www.izai2.net/suii.html+%E6%B2%B3%E6%B4%A5+site:izai2.net&cd=3&hl=ja&ct=clnk&gl=jp
平成22年4月12日	伊豆下田病院が地域医療振興協会に経営譲渡と発表	平成22年7月より祥和会から経営譲渡。梓友会の介護施設の嘱託医も4月から協会関連に変更。	http://kinojun.cocolog-nifty.com/blog/2010/04/post-bf54.html
平成22年4月13日	医療経営財務協会ホームページ記事	4月10日の記事から一部を削除して再掲載	http://izai2.net/taisuru.html
平成22年4月16日	新病院の指定管理者としてジャパンメディカルアライアンスと協議中と公表(同日にジャパンメディカルアライアンスと一部事務組合の第1回河津町長選挙で、下田新病院推進を訴えた相馬候補が当選	海老名総合病院、東埼玉総合病院などを経営する医療法人	http://kinojun.cocolog-nifty.com/blog/2010/04/post-02a7.html
平成22年4月18日	河津町立病院構想は困難に	河津町立病院構想は困難に	http://kinojun.cocolog-nifty.com/blog/2010/04/post-7f99.html
平成22年4月19日	医療経営財務協会ホームページ記事	湊病院の下田市新築移転は河津町民の支持も得た。(社)地域医療振興協会の河津町進出阻止を訴えた相馬宏行氏が当選した。(社)地域医療振興協会は湊病院の指定管理者撤退表明をする一方、予定地至近距離の伊豆下田病院を3億円で買収し河津町進出意向を表明するなど公益認定取り消しもありうる暴挙に対して河津町民が厳しい判断をしたということであろう。昨年早々公益認定した内閣府も法人の存続を見直しを迫られる事になろう。行政刷新会議事業仕訳で公益法人として事業選定の動きも当然ありうるのではなかろうか。	http://izai2.net/kenren.html
平成22年4月19日	新病院建設プロポーザル競技審査結果発表	戸田建設が特定者とされた。免震構造で、17億8185万円。	http://kinojun.cocolog-nifty.com/blog/2010/04/post-3d49.html
平成22年4月28日	一部事務組合運営会議	東伊豆町長、西伊豆町長は運営会議を無視して独走する管理者副管理者に不快感を表明したが、報道では、ジャパンメディカルアライアンスを指定管理者候補として協議を進める事で「大筋合意」と伝えられた。	http://kinojun.cocolog-nifty.com/blog/2010/04/428ima-ed2e.html
平成22年4月30日	第12回調査特別委員会	最終報告にむけた整理検討・その他	
平成22年5月24日	一部事務組合運営協議会	地域医療振興協会は平成23年4月以降契約をする意志が無いことを表明し、ジャパンメディカルアライアンスに依頼するように求めた。伊豆下田病院の運営体制や今後の予定について説明した。	http://kinojun.cocolog-nifty.com/blog/2010/05/524-3-0990.html
平成22年5月24日	共立湊病院運営協議会議事録		http://www10.ocn.ne.jp/~minatohp/data/gijiroku/uneikyougikai/H22.5.24uneikyougikai.pdf
平成22年5月28日	賀茂地区医療協議会	伊豆下田病院の祥和会から地域医療振興協会への経営譲渡を承認	報道無し
平成22年6月4日	ジャパンメディカルアライアンスと一部事務組合の第7回協議会	事務的協議が完了した。	http://kinojun.cocolog-nifty.com/blog/2010/06/ima-
平成22年6月10日	ジャパンメディカルアライアンス理事会で申請書の提出を決議		http://kinojun.cocolog-nifty.com/blog/2010/06/ima-
平成22年6月11日	ジャパンメディカルアライアンスと一部事務組合の第8回協議会 ジャパンメディカルアライアンスが指定管理者指定申請書を提出		http://kinojun.cocolog-nifty.com/blog/2010/06/ima-5047.html
平成22年6月17日	一部事務組合運営会議	ジャパンメディカルアライアンスから提出された申請書の内容が報告された。平成23年4月以降の指定管理者確保について執行部から具体的な方針は示されなかった。リンク先に詳細な提案内容有り。	http://kinojun.cocolog-nifty.com/blog/2010/06/ima-5047.html
平成22年6月21日	一部事務組合全員協議会	篠原議員の質疑内容が議員のブログに掲載された。	http://ameblo.jp/ken-shinohara/day-20100624.html
平成22年6月23日	下田市議会市長答弁	7月1日に組合議会臨時会を開き、ジャパンメディカルアライアンスの指定管理者議決、百条委員会の報告が行われると答弁した。また、百条委員会の結論が出れば、地域医療振興協会との医療空白協議に何らかの新しい展開が見えてくるだろうと述べた。	http://kinojun.cocolog-nifty.com/blog/2010/06/71-ima-59f9.html
平成22年6月	下田市議会に関する報道		http://kinojun.cocolog-nifty.com/blog/2010/06/6-
平成22年6月26日	一部事務組合議員8名他がジャパンメディカルアライアンス本部を訪問	理事長と面談し、概要説明を聞いた。	http://ameblo.jp/ken-shinohara/day-20100628.html
平成22年6月29日	下田市議3名が一部事務組合に職員措置請求書を提出	下田市からの寄附金を基金として積み立てる事を専決処分する事と、公募によらず指定管理者を選定する事に対して監査を請求した。下田市への措置請求は却下された。病院組合への措置請求は9月までに報告される予定。	http://kinojun.cocolog-nifty.com/blog/2010/06/3-6345.html
平成22年7月1日	一部事務組合議会臨時会でジャパンメディカルアライアンスが指定管理者の議決を受ける	指定期間は新病院開院の月の1日から15年間。平成23年4月からの指定管理者の空白が確定した。	http://kinojun.cocolog-nifty.com/blog/2010/07/post-7b91.html
平成22年7月1日	一部事務組合議会臨時会議事録		http://www10.ocn.ne.jp/~minatohp/data/gijiroku/gikai/H22.7rinji1.pdf
平成22年7月1日	第13回調査特別委員会	最終報告の検討・その他	
平成22年7月1日	百条委員会報告書が公開される	見積り依頼の事実が確認出来なかったにも関わらず、「某医療団体からの圧力があった事が推察される」と不可解な報告。	http://www10.ocn.ne.jp/~minatohp/data/100jou-houkoku.pdf
平成22年7月1日	伊豆下田病院が地域医療振興協会の運営に		http://kinojun.cocolog-nifty.com/blog/2010/04/post-bf54.html
平成22年7月12日	一部事務組合正副管理者らが静岡県知事を訪問	指定管理者決定を報告。知事は医療空白を回避するために地域医療振興協会に頭を下げてお願いすべきではと発言。	http://kinojun.cocolog-nifty.com/blog/2010/07/post-c66a.html
平成22年7月12日	一部事務組合か災害拠点病院の補助金要求を取り下げ	条件である病床10%削減ができないためとの事	
平成22年7月21日	一部事務組合構成首長らが地域医療振興協会に指定管理継続にかかる要望書を提出	「新病院の指定管理者公募における受託条件の齟齬により、貴法人からの応募がいただけなかったことは慙愧の極み」賀茂医療圏における公的医療の提供はもとより高度医療を担う基幹病院としての使命に鑑み、指定管理継続についてのご理解とご協力を賜りますようお願いいたします。」	http://kinojun.cocolog-nifty.com/blog/2010/07/post-2d70.html
平成22年7月26日	第16回組合議会将来構想特別委員会	平成23年2月議会までに報告書を提出すると	http://ameblo.jp/ken-shinohara/day-20100728.html

平成22年8月3日	組合管理者らが地域医療振興協会理事長に再度継続要望	管理者、副管理者(東伊豆町長)、河津町長、組合事務局長が協会本部を訪問し、吉新理事長に平成23年4月以降の継続を要望。	http://kinoiun.cocolog-nifty.com/blog/2010/08/83-
平成22年8月5日	地域医療振興協会理事会	湊病院継続に関する議案は継続審議とされた	http://kinoiun.cocolog-nifty.com/blog/2010/08/85-
平成22年8月10日	下田市議会議員藤井六一氏が「伊豆ジャーナル 共立湊病院問題特集号」を発行	医療空白の責任、協会ははずし、百条委員会調査、聖勝会への損害賠償請求、寄付金問題などについての意見を表明。	http://kinoiun.cocolog-nifty.com/blog/2010/08/post-a7f3.html
平成22年8月10日	伊豆ジャーナル 共立湊病院問題特集号 一面		http://kinoiun.cocolog-nifty.com/ij1.png
平成22年8月10日	伊豆ジャーナル 共立湊病院問題特集号 二面		http://kinoiun.cocolog-nifty.com/ij2.png
平成22年8月19日	地域医療振興協会理事会	湊病院継続に関する議案は継続審議とされた	http://kinoiun.cocolog-nifty.com/blog/2010/08/819-
平成22年8月25日	一部事務組合議会定例会	共立湊病院の外来・入院患者数減少について批判される。新病院の職員宿舎4億8千万円の補正予算が可決。また新病院の着工予定が平成23年3月、工期約1年と報告された。	http://kinoiun.cocolog-nifty.com/blog/2010/08/post-7b56.html
平成22年8月25日	一部事務組合議会定例会		http://www10.ocn.ne.jp/~minatohp/data/gijiroku/gikai/H22.8teirei.pdf
平成22年8月25日	一部事務組合運営会議	地域医療振興協会への継続要望を断念し、ジャパンメディカルアライアンスに繋ぎの指定管理を要望する事になった。	http://kinoiun.cocolog-nifty.com/blog/2010/08/post-50e6.html
平成22年8月25日	共立湊病院組合職員措置請求に対する監査委員の判断が出された	内容には踏み込まず入口論で監査請求を退ける。聖勝会の指定管理者辞退による損害や「医療空白」は未確定であり、監査対象としないと報告。	http://kinoiun.cocolog-nifty.com/blog/2010/09/3-d917.html
平成22年8月25日	静岡県から社会医療法人ジャパンメディカルアライアンスは県内で医療機関を運営できないとの指摘がなされた	医療法により、実績の無い県では医療機関を運営できない。同日開かれた議会や運営会議ではこの事は報告されていない。(会議の後に通知があった?)	
平成22年8月30日	一部事務組合から地域医療振興協会に継続要望の撤回が伝えられる	協会は翌8月31日静岡県に経緯を報告した。	
平成22年9月6日	一部事務組合正副管理者がジャパンメディカルアライアンスに現病院の繋ぎ指定管理を要望	赤字補填や規模縮小等についても書かれていた模様	http://kinoiun.cocolog-nifty.com/blog/2010/09/jma-
平成22年9月9日	下田市議会一般質問で湊病院問題がとりあげられる		http://kinoiun.cocolog-nifty.com/blog/2010/09/910-
平成22年9月30日	静和病院が閉院	賀茂医療圏の基準病床に145床の空きが生じるはずだったが、10月25日に出されたのは1年間の休止届であった。	http://kinoiun.cocolog-nifty.com/blog/2010/10/post-600c.html
平成22年10月1日	ジャパンメディカルアライアンスが平成23年4月から別法人による指定管理受託を表明。組合運営会議は受け入れで合意。	受託の条件として、赤字補填、平成22年度中の人材確保のための費用支援、診療科・診療内容の縮小(50床、内科外科のみ、二次救急主体、医師10名、看護師20名体制)を挙げた。また、医療法の規定で社会医療法人ジャパンメディカルアライアンスとして指定管理者を受託できないため、静岡県内の医療法人と協力して別法人を設立して運営にあたる事とした。運営会議ではこれらの条件を受け入れる事で合意。赤字補填は組合の「運転資金」から拠出するとした。	http://kinoiun.cocolog-nifty.com/blog/2010/10/234-82cf.html
平成22年10月4日	一部事務組合全員協議会		http://ameblo.jp/ken-shinohara/day-20101011.html
平成22年10月7日	一部事務組合幹部が静岡県知事に「医療空白」回避を報告		http://kinoiun.cocolog-nifty.com/blog/2010/10/post-153b.html
平成22年10月12日	一部事務組合幹部とジャパンメディカルアライアンス理事長が静岡県健康福祉部長を訪れ、聖勝会を継承する新法人静岡メディカルアライアンスの設立計画を説明	法人設立の方法はジャパンメディカルアライアンスに一任する事で運営会議の合意を得ている事。聖勝会を継承する形で新法人を立ち上げる事などを説明した。	http://blogs.yahoo.co.jp/trueheart241112/19868952.html
平成22年10月12日	ジャパンメディカルアライアンスによる現病院職員向け就職説明会(南伊豆)	新法人名は静岡メディカルアライアンス。院内保育所の設置、デイズニールゾート割引などの福利厚生事業など。母体となる静岡県内の既存の医療法人の名称は最終決定まで明らかにできないとこの回でも新法人の母体については明らかにされなかった。2回の説明会に合計150名程の職員が参加した。	http://kinoiun.cocolog-nifty.com/blog/2010/10/1012-ad0a.html
平成22年10月24日	ジャパンメディカルアライアンスによる現病院職員向け就職説明会(下田)		http://kinoiun.cocolog-nifty.com/blog/2010/10/1012-ad0a.html
平成22年10月27日	沢登英信下田市議会議員が湊病院問題に関する新聞を配布	地域医療振興協会とジャパンメディカルアライアンスに対しての二重基準などを指摘。改めて指定管理者の公募を行うべきと主張。	http://kinoiun.cocolog-nifty.com/sawato101025.pdf
平成22年10月28日	下田市長が定例記者会見で、静岡メディカルアライアンスが聖勝会を継承する法人である事を公表	既存法人を母体に新法人を設立しないと起債が間に合わないとの説明。指定管理者を突然辞退した法人を、随意契約で再選しようという計画。	http://kinoiun.cocolog-nifty.com/blog/2010/10/post-d053.html
平成22年11月1日	静岡県が医療法人社団静岡メディカルアライアンスを認可	医療法人社団聖勝会を継承する新法人	
平成22年11月2日	一部事務組合議会将来構想特別委員会	ジャパンメディカルアライアンスの杉原理事長が参考人として出席し、前日新法人が認可された事などを説明した。	http://kinoiun.cocolog-nifty.com/blog/2010/11/post-
平成22年11月8日	一部事務組合を構成する1市5町の議員の有志が集まり、指定管理者の公募を求めて署名活動を開始する事を決定	組合管理者に対する陳情書と、組合議長に対する請願書を提出する計画	http://kinoiun.cocolog-nifty.com/blog/2010/11/2-144e.html
平成22年11月10日	下田市議会議員藤井六一氏が「伊豆ジャーナル 共立湊病院問題特集号第2弾」を発行		http://kinoiun.cocolog-nifty.com/ij_no2.pdf
平成22年11月15日	医療法人静岡メディカルアライアンスの登記が完了	理事長は社会医療法人ジャパンメディカルアライアンスの杉原理事長が務める。	http://www.iinai.jp/corp/img/release/items/press101120.pdf
平成22年11月26日	藤井六一下田市議ら4人が指定管理者の公募をもとめる要望書と請願書を提出	要望書は1638名分の署名を添えて組合管理者へ、請願書は1645名分の署名を添えて組合議長に提出された。	http://kinoiun.cocolog-nifty.com/blog/2010/11/1126-21ff.html

平成22年11月26日	一部事務組合運営会議	管理者南伊豆町長と副管理者下田市長に対して、他の4町長が激しく対立して、会議は紛糾。 西伊豆町長は赤字補填の上限や、万が一組合の資金が枯渇した場合の対応をどうするつもりなのかと質問したが、下田市長は巨額の赤字は発生しないだろうとの見通しを示し、補填の上限を定める事は考えていないと説明。実際に問題が起きた場合はその時点で運営会議を開き検討すれば良く、今は静岡メディカルアライアンスを信用することが最も大切であると答えた。 4町長は聖勝会を引き継いだ静岡メディカルアライアンスの債務超過や、未払いの借金の問題についての確認が取れなければ指定管理者議決を上程するべきでは無いとした。下田市長は借金の問題は相手の言い分と聖勝会の言い分があり、どちらが正しいのかは我々には判断できないと発言。南伊豆町長はすでにこの日に議会開催通知の発送が済んでいると答え、議案上程を決定した。	http://kinojun.cocolog-nifty.com/blog/2010/11/1126-fcc7.html
平成22年11月29日	静岡メディカルアライアンス西川理事が、地元関係者との会合で、平成23年3月末で須崎診療所の診療を中止する事を発表	「医療法人静岡メディカルアライアンスの傘下に入ったので、採算がとれない須崎診療所での医療活動が出来ない。(新法人の方針)従って三月末日で中止します。」	http://blogs.yahoo.co.jp/trueheart241112/21163383.html
平成22年12月2日	下田市議会議員藤井六一氏が「伊豆ジャーナル 共立湊病院問題特集号第3弾」を発行	11月26日の運営会議の紛糾の様子をレポート。債務問題も取り上げる。	http://kinojun.cocolog-nifty.com/ij_no3.pdf
平成22年12月5日	一部事務組合臨時議会	河津町の坪井議員と、松崎町の篠原議員が、静岡メディカルアライアンスが聖勝会から引き継いだ債務の問題や、組合会計に関する懸念などを質問した。 新病院開設交付金6000万円、医師確保対策交付金2000万円を含む補正予算を可決。指定管理者の公募を求める請願書を否決。静岡メディカルアライアンスを指定管理者とする議案を可決した。	http://kinojun.cocolog-nifty.com/blog/2010/12/125-c22a.html
平成22年12月5日	一部事務組合臨時議会議事録		http://www10.ocn.ne.jp/~minatohp/data/gijiroku/gikai/101205rinjikai.pdf
平成22年12月8日	組合議会が医療対応の改善を求める要望書を提出	入院、外来の減少傾向が続いていること、予約が無いことを理由にけが人が診療を断られたという苦情、整形外科の医師が減員されたまま補充されていない点を指摘。管理者には、地域医療振興協会に対し勧告を含めた対策を促し、院長には指定期間が切れるまで、しっかりした地域医療を担うことを要望。	http://kinojun.cocolog-nifty.com/blog/2010/12/post-e184.html
平成22年12月9日	松崎町議会が一部事務組合脱退決議案を否決	組合議会での指定管理者議決は首長間の同意がなされていない強引な提案と指摘。現在の組合は、医療空白のみを大義に地域性の配慮もかんがみない現状は異常で、松崎町は組合から脱退すべきとしたが、賛成4、反対5で否決。	http://kinojun.cocolog-nifty.com/blog/2010/12/post-6b1a.html
平成23年1月10日	下田市議会議員藤井六一氏が「伊豆ジャーナル 共立湊病院問題特集号第4弾」を発行		http://kinojun.cocolog-nifty.com/ij_no4.pdf
平成23年1月21日	新病院建設工事説明会(非公開)	組合議会全員協議会+首長を集めて非公開で開催。透析センターは取りやめ、手術室増設、血管造影室増設などの設計変更。2月25日に起工式行う予定とされた。	http://kinojun.cocolog-nifty.com/blog/2011/01/121-225-9a71.html
平成23年2月2日	静岡県医務課ホームページに「共立湊病院の移転新築と、それに対する県の取組の状況についてご説明します。」という記事	これまでの経緯の説明と、今後の県の取組について説明。「今後とも、県としては、共立湊病院が円滑に運営され、賀茂地域の医療提供体制が確保されるよう、上記の許可手続き等を通じて、共立湊病院組合や医療法人社団静岡メディカルアライアンスに対し、必要な助言や支援を行ってまいります。」	http://www.pref.shizuoka.jp/kousei/ko-410/kyouritsuminato.html
平成23年2月9日	沢登英信下田市議会議員が湊病院問題に関する新聞第2号を配布	「SMAと共立湊病院組合への疑問 住民のための医療行政を」と題し、問題点を指摘。	http://kinojun.cocolog-nifty.com/sawato110209.pdf
平成23年2月17日	下田市議会議員有志呼びかけによる講演会「公立病院と地域医療について みんなで考えよう住民のための医療行政を!!」共立湊病院組合 議会だより 発行	講師は元自治労連の山本裕氏	http://kinojun.cocolog-nifty.com/blog/2011/02/217-5af8.html
平成23年2月18日	共立湊病院組合議会将来構想特別委員会 最終報告	平成23年4月から新病院開院まで南伊豆町の現在地で、医療(入院・救急を含む)を継続いたします。 南伊豆町湊の共立湊病院は、今年4月から静岡メディカルアライアンスが、新病院開院までの医療を継続いたします。 診療科目は、内科・外科・整形外科・小児科他です。現在内科医8名・外科医2名・整形外科医3名(内非常勤1名)の計13名の医師が確保されており、他の診療科目についても、医師の確保をお願いしています。 共立湊病院で受診されている患者様は、そのまま診療が続けられますのでご安心下さい。 [組合のホームページでは無く、医療経営財務協会ホームページに掲載された]	http://kinojun.cocolog-nifty.com/blog/2011/02/post-855c.html#comments
平成23年2月18日	共立湊病院組合議会将来構想特別委員会 最終報告		http://ameblo.jp/ken-shinohara/day-20110221.html
平成23年2月22日	静岡メディカルアライアンスが共立湊病院組合に、平成23年4月からは50床でのスタートと通		
平成23年2月25日	下田メディカルセンター(仮称)および職員宿舎起工式	静岡新聞の報道で、平成23年4月以降の診療科が内科、外科と非常勤の整形外科のみである事が判明。議会だよりの内容と異なる。	http://kinojun.cocolog-nifty.com/blog/2011/02/23225-f651.html
平成23年2月25日	共立湊病院組合議会	平成23年度予算を可決 静岡県に対する意見書を議決	http://kinojun.cocolog-nifty.com/blog/2011/03/225-
平成23年2月25日	共立湊病院組合議会将来構想特別委員会最終報告	・設計施工一括発注方式の公募型プロポーザル競技で建設費の圧縮。 ・指定管理者が減価償却費相当額の全額負担。 ・救急医療など、不採算医療への支援。 ・組合と指定管理者との信頼関係構築。 ・今後の課題として、院内助産院の開設、医師確保による50床の増床が重要と指摘。 ・組合運営に関しては、(自治体ごとの)温度差があり、抜本的見直しが必要。 [3月2日に医療経営財務協会ホームページに掲載された]	http://kinojun.cocolog-nifty.com/blog/2011/03/post-cc0f.html
平成23年2月25日	共立湊病院組合が静岡県に、4月時点で常勤医師1名(杉原理事長)のみと通知		http://kinojun.cocolog-nifty.com/blog/2011/03/2341-6863.html
平成23年2月28日	共立湊病院組合が構成市町に平成23年4月以降の診療体制を通知	・内科・外科・整形外科。小児科は医師が確保できたい。 ・50床からのスタート。地域医療振興協会との引き継ぎは40名前後を要請。 ・2月末時点で、医師確保は、常勤4(うち県派遣3)、非常勤6	

平成23年2月28日	静岡県が共立湊病院組合に4月以降の常勤医師の確保を含めた運営体制について対応及び報告を求める文書を送付		http://kinojun.cocolog-nifty.com/blog/2011/03/2341-6863.html
平成23年3月2日	共立湊病院内に診療縮小を通知する掲示		http://kinojun.cocolog-nifty.com/reduction.pdf
平成23年3月4日	下田市議会	下田市長答弁、3月2日に(静岡メディカルアライアンスの杉原)理事長から直接、医師の確保ができず当面は50床の1病棟でスタートしたい。」との報告を受けた。「とりあえず内科と外科だけが、24時間体制で2次救急を守る」事が約束された。しかし後の報道で県は組合から2月25日には常勤1名の事実を知らされている事が分かり、市長答弁は事実と異なる事が露呈。	http://kinojun.cocolog-nifty.com/blog/2011/03/23450-8ea1.html
平成23年3月7日	共立湊病院組合が静岡県の文書に対して報告	常勤医師1名は変わらず	
平成23年3月10日	南伊豆町議会	町長答弁、地域医療振興協会が撤退に向けて外科、整形外科を縮小し、SMAとの引き継ぎは協定に従って進められている、診療科目はスタッフの確保ができていないのが実情で、内科と外科でスタートし、整備していく、救急の整形外科は非常勤医師で対応していくことになる、来年5月の開院に向けて充実をさらに要望する。	http://kinojun.cocolog-nifty.com/blog/2011/03/23310-1efb.html
平成23年3月10日	静岡県が共立湊病院組合に、共立湊病院の運営体制及び賀茂地域の救急医療体制について、報告を求める文書を再送付		http://kinojun.cocolog-nifty.com/blog/2011/03/2341-6863.html
平成23年3月16日	賀茂地域医療協議会(公開)	冒頭組合管理者は常勤が2名になったと報告。県からの医師派遣を求めた。静岡県医療健康局長は組合側の対応を批判。他の参加者からも組合の方針に異論が相次いだ。	http://kinojun.cocolog-nifty.com/blog/2011/03/2341-6863.html
平成23年3月17日	静岡県知事定例記者会見で共立湊病院組合の対応を批判	一部事務組合と静岡メディカルアライアンスに対して約束を守らないなら、県は必要な対応を行うことはできないと、強い口調で述べた。(映像14分50秒付近から)	http://bb.pref.shizuoka.jp/list.asp?cate=1&id=1617
平成23年3月18日	静岡県知事が共立湊病院に医師を派遣しない事を決定	「組合の住民への欺瞞がはっきりした。厳しく指弾したい」 4月以降共立湊病院は救急病院として機能する事が絶望的となった。	http://kinojun.cocolog-nifty.com/blog/2011/03/post-b2a2.html
平成23年3月31日	地域医療振興協会による共立湊病院の指定管理契約が満了		
平成23年4月1日	医療法人社団静岡メディカルアライアンスによる共立湊病院の運営開始?		
平成23年4月6日	静岡県内新聞各紙で、静岡県が伊東市民病院から共立湊病院の支援を要請したと報道	県側から伊東市民病院幹部に要請はあったが、結局湊病院サイドからの派遣要請は無く、この話は立ち消えとなった。	http://kinojun.cocolog-nifty.com/blog/2011/04/sma-9d86.html
平成23年4月29日	静岡新聞に署名記事「運営の透明性向上を」	新病院開院に向けて、行政側の情報公開、安定した病院経営などが求められる。県幹部は「組合は真剣に医師確保に駆け回ったのかどうか質問。『見捨てられた』との声が地域にあるとすれば、正しい情報を公表してこなかったからだ」と指摘。組合は一部地域で住民説明会を開く予定だったが、混乱で日程を組めなかったためチラシだけの広報となった。 今後は積極的な情報公開と意見交換の場が大切。当初80-90床であれば黒字とされたが、4月は約20床しか稼働しておらず厳しい状況。組合は医師確保に積極的に支援すべき。県と地元市町が一体となって地域医療を守る体制が求められる。	http://kinojun.cocolog-nifty.com/blog/2011/05/429-de0e.html
平成23年5月4日	伊豆新聞 静岡メディカルアライアンス杉原理事長のインタビュー記事	外来患者は当初1日40人程度だったが、最近では100人を超す日があり、次第に増加傾向。4月27日現在入院患者数19名。(引)	http://kinojun.cocolog-nifty.com/blog/2011/05/57-
平成23年5月9日	共立湊病院(SMA)に常勤の外科医が着任	非常勤医師による婦人科外来も開始	http://kinojun.cocolog-nifty.com/blog/2011/05/1-
平成23年5月17日	伊藤英雄 前組合議長が組合議員から外れる	下田市選出の組合議員は土屋雄二氏と藤井六一氏に	http://kinojun.cocolog-nifty.com/blog/2011/05/1-
平成23年6月18日	「共立湊病院問題を真剣に考える会」が公開質問状	・現時点での医師や看護師の確保状況 ・二次救急病院としての対応 ・赤字補填の予測額と対応 ・指定管理者との協定と組合条例との整合性 ・新病院の医師や看護師の確保の見込み ・地震津波対策の 上記6項目を組合管理者に質問したが、明確な回答は得られなかった。	http://kinojun.cocolog-nifty.com/blog/2011/06/post-4c47.html
平成23年6月22日	南伊豆民報(横嶋議員の新聞)「伊豆南部の公立病院を守る」	医療経営財務協会のホームページに掲載された。	http://izai2.net/nanbu.html
平成23年6月23日	下田市議会一般質問	・市長答弁「賀茂医療圏域で唯一の公的医療機関で、地域が支える中核病院になる」と説明。 ・「予防活動に力を入れ、特定検診や人間ドックの利用を増やしていく。院内には地域支援室(仮称)を設け、市民相談や講演会開催などを行い、身近で信頼される病院にしたい」 ・現在の湊病院への不安の指摘に対しては、「空白期間発生を回避できた。現場の医師は一生懸命やっている」	http://kinojun.cocolog-nifty.com/blog/2011/06/post-a093.html
平成23年7月1日	共立湊病院(SMA)に常勤の整形外科医が着任		http://kinojun.cocolog-nifty.com/blog/2011/07/7-
平成23年8月24日	伊豆新聞記事「外来に脳神経外科 来月6日から診療体制変更」	・9月6日から火曜日午後と水曜日午前に脳神経外科外来(非常勤) ・現在、常勤医師5人のうち2人が休職中。 ・10月には新たに医師2人確保見通し。 ・年末までに常勤医師8人に拡充し、下田メディカルセンター開院時に10人体制を目指している。	http://kinojun.cocolog-nifty.com/blog/2011/08/post-074d.html
平成24年5月7日	下田メディカルセンター(仮称)開院予定		